

Oracle® Fusion Cloud EPM

レポートの操作



F28063-30

ORACLE®

Oracle Fusion Cloud EPM レポートの操作、

F28063-30

Copyright © 2016, 2025, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL, and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて

ドキュメントのフィードバック

1 EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

2 レポートの概要

レポートについて	1
レポートへのアクセス	3
レポートのプレビュー	5
レポートのプレビューについて	6
グローバル POV のメンバーの選択	7
ローカル POV のメンバーの選択	9
有効な交差の操作	9
有効な交差について	9
視点からの有効な交差についての理解	11
グリッド・データでの有効な交差についての理解	17
レポート・プロンプトへの応答	18
親メンバーのズーム	20
コンテンツへのドリル、ドリル・スルー、セルの添付およびコメント	20
レポートの POV のプレビュー	21
条件付きテキストのドリル	22
レポートの表示	23
Smart View でのレポートの操作	28
ノートの操作	30
レポート・プレビューにおけるノート・テキストの入力	30
インライン・グリッドによるノート・テキストの入力	31
ノート・テキスト・ボックスの操作	32

3 **ブックの表示および操作**

ブックへのアクセス	2
ブックのプレビュー	5
ブック POV のメンバーの選択	6
ブック・プロンプトへの応答	9
ブックの POV のプレビュー	10
ブックの表示	11

4 **リモート・ライブラリでのレポート・アーティファクトの操作**

5 **レポートおよびブックの URL のコピー**

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックは、Oracle Help Center のトピックのページ下部にあるフィードバック・ボタンをクリックして送信してください。epmdoc_ww@oracle.com に Eメールを送信することもできます。

1

EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行

EPM のベスト・プラクティスは、CoE (センター・オブ・エクセレンス)を作成することです。

EPM CoE は、導入およびベスト・プラクティスを確実にするための統合された取り組みです。パフォーマンス管理およびテクノロジー対応ソリューションの使用に関連するビジネス・プロセスの変革を促進します。

クラウドの導入により、組織がビジネス・アジリティを改善し、革新的なソリューションを促進することが可能になります。**EPM CoE** はクラウド・イニシアチブを監督し、投資を保護および維持し、効果的な使用を促進するのに役立ちます。

EPM CoE チーム:

- クラウドの導入を確実にし、組織が **Oracle Fusion Cloud EPM** の投資を最大限に活用することを支援します
- ベスト・プラクティスの運営委員会として機能します
- EPM 関連の変更管理イニシアチブをリードし、変革を促進します

すでに EPM を実装済の顧客を含めて、すべての顧客が EPM CoE からメリットを得られます。

どのように始めたらよいですか。

クリックして、EPM CoE のベスト・プラクティス、ガイダンスおよび戦略を取得します: [EPM センター・オブ・エクセレンスの概要](#)。

さらに学習する

- クラウド・カスタマ・コネクト Web セミナーを見る: [Cloud EPM のセンター・オブ・エクセレンス\(CoE\)の作成および実行](#)
- ビデオを見る: [概要: EPM センター・オブ・エクセレンスおよびセンター・オブ・エクセレンスの作成](#)。
- *EPM センター・オブ・エクセレンスの作成および実行*の EPM CoE のビジネス上の利点と価値提案の確認。



2

レポートの概要

次も参照:

- [レポートについて](#)
- [レポートへのアクセス](#)
レポートにアクセスするには、ホーム・ページで「レポート」カードまたは「ライブラリ」カードを選択します。
- [レポートのプレビュー](#)
- [レポートの表示](#)
「処理」メニューを選択すると、レポートを様々な方法で表示できます。
- [Smart View でのレポートの操作](#)
- [ノートの操作](#)

レポートについて

レポートでは、レポート参照者の強化された操作性とともにユーザー・フレンドリで堅牢なレポート開発フレームワークが提供されます。レポートは、Narrative Reporting (Narrative Reporting デプロイメント)に含まれ、複数の Oracle Fusion Cloud EPM ソース、Essbase Cloud および ERP Cloud Financials からチャートおよびグリッドを挿入できるようにします。レポートは、Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・ビジネス・プロセスおよびアプリケーションにも埋め込まれています: Enterprise Profitability and Cost Management、Planning および Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting、および単一インスタンス・レポートのフリーフォーム(Cloud EPM デプロイメント)。

レポートにはブックおよびバースティングも含まれます。ブックを使用すると、1つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一の PDF または Excel 出力を生成できます。バースティングでは、1つのデータ・ソースの単一ディメンションの複数のメンバーに対して単一のレポートまたはブックを実行し、各メンバーの PDF または Excel 出力を公開できます。

レポートを使用して、特に Cloud EPM ビジネス・プロセスおよびコンポーネント(タスク・マネージャ、補足データ、エンタープライズ仕訳など)の Cloud EPM システム・レポートを生成することもできます(エンタープライズ・ライセンスのみ)。必要に応じてレポート内にデータ表を埋め込み、システム・データを含めることができます。このことを行うには、リレーショナル表をレポートに挿入して Cloud EPM ビジネス・プロセス・スキーマに接続し、メンバーを選択した後、Cloud EPM リレーショナル・システム・データに基づいてシステム・レポートを生成します。メンバー・セクタ、プロンプトと POV、書式設定、ソート、コンテンツへのドリル、条件付き書式設定/抑制、式、グループ化など、一部のグリッド機能を表で使用することもできます。リレーショナル表で使用できるその他のレポート機能は、チャート、テキスト・ボックス、ブック、バースティングおよび Excel 出力(レポートのみ)です。

Narrative Reporting デプロイメントのレポートは、POV ベースのナラティブ・テキストのノートも含み、書式設定されたレポートにグリッドおよびチャートとともに表示されます。レポート構造およびナラティブの要件がエンティティ、部門などの間で統一されている場合、ノートを利用できます。Cloud EPM デプロイメントにはノートが含まれていません。

レポートにはレポートの設計および編集用の使いやすいドラッグ・アンド・ドロップ・インタフェースが備わっています。次のことが可能です。

- レポート・オブジェクト(グリッド、チャート、イメージ、テキストボックス)を作成し、レポートに挿入および配置します。
- レポート全体を実行せずに、個々のグリッドまたはチャートを設計し、結果をプレビューします。
- **Narrative Reporting** デプロイメントでは、共有レポートに含まれているレポート・オブジェクトを挿入して、複数のレポートでレポート・オブジェクトを使用し、共有レポート・オブジェクトを保守する単一ポイントを提供します。
- グリッド値およびテキスト関数を計算するための式を挿入して、レポートおよびグリッド・メタデータを動的に取得します。
- 様々なチャートのタイプおよび機能を持つ強化チャートを利用します。
- 動的メンバー選択関数、代替変数、セル・テキストおよびファイル添付、**Financial Intelligence**、UDA および属性などのデータ・ソース機能をレポートに使用します。
- 条件付きの書式設定、テキストおよび抑制を適用して、グリッド・セルを書式設定したり、メンバー情報またはデータ値に基づいてデータを抑制します。
- 親メンバーをズームして詳細メンバーを表示し、その他のレポートまたはソース・データにドリルします。

Narrative Reporting デプロイメントでは、次のことが可能です。

- レポートを **Narrative Reporting** レポート・パッケージ・ドックレットに埋め込んで、コラボレーションによるナラティブ・レポート・プロセスに統合し、集中管理型の視点(POV)コントロールおよび自動ドックレット更新によるサーバー側リフレッシュを実行します。
- クロス・クラウド・コンテンツを単一のレポートに結合します。目的のデータ・ソースをポイントするようにデータ・ソース接続を作成および定義します。
- レポート、セキュリティおよび POV 選択は、**Narrative Reporting** 内で管理されます。アーティファクトは **Narrative Reporting** ライブラリ内で保存および管理されます。
- レポート、ブックおよびバースティングの定義は、別の環境にエクスポートおよびインポートできます。
- フォントはアップロードされて **Narrative Reporting** ライブラリ内で管理されます。
- バースティング定義のスケジュールは、**Narrative Reporting** のジョブ・コンソールを介して実行されます。
- **Financial Reporting (FR)** レポート・アーティファクト・エクスポートのライブラリ・インポートを介して、**Financial Reporting (FR レポート)**をレポートに移行します。
- 生成 AI (GenAI)を利用して、ナラティブ・サマリーをテキスト・ボックスまたはテキスト・セグメントに生成し、ノートに要約します。

Cloud EPM デプロイメントでは:

- レポートにノートまたは生成 AI 機能は含まれません。
- レポートは **リモート・ライブラリ**を介して **Narrative Reporting** に統合されますが、**Cloud EPM** デプロイメントのレポートは **レポート・パッケージ**や **Narrative Reporting** の **ブック**および **バースティング定義**には挿入できません。
- レポートは、単一インスタンス・レポートとともに各ビジネス・プロセスに埋め込まれます。他の **Cloud EPM** インスタンスをポイントできません。データ・ソースは、インスタンス上にある **Cloud EPM** アプリケーション・キューブに基づいて自動的に作成されます。

- レポート、セキュリティおよび POV 選択は、Cloud EPM プラットフォームによって管理されます。レポートは Cloud EPM リポジトリに保存されます。
- レポート、ブックおよびバースティング定義は、Cloud EPM ライフサイクル管理を使用して環境間で移動できます。
- **Financial Reporting** カード/タブを介して、**Financial Reporting (FR レポート)**をネイティブにレポートに移行します。
- フォントはアップロードされてレポート設定の「アプリケーション設定」で管理されます。
- バースティング定義のスケジュールは、Cloud EPM プラットフォームのジョブ・スケジューラを介して実行されます。

次の概要ビデオを視聴して、レポートのハイライトを理解します。



-- [Cloud EPM Narrative Reporting のレポート](#).



-- [新しい Cloud EPM プラットフォームのレポート](#).

次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートを作成する方法を学習します。



-- [Narrative Reporting Cloud でのレポートの作成](#).



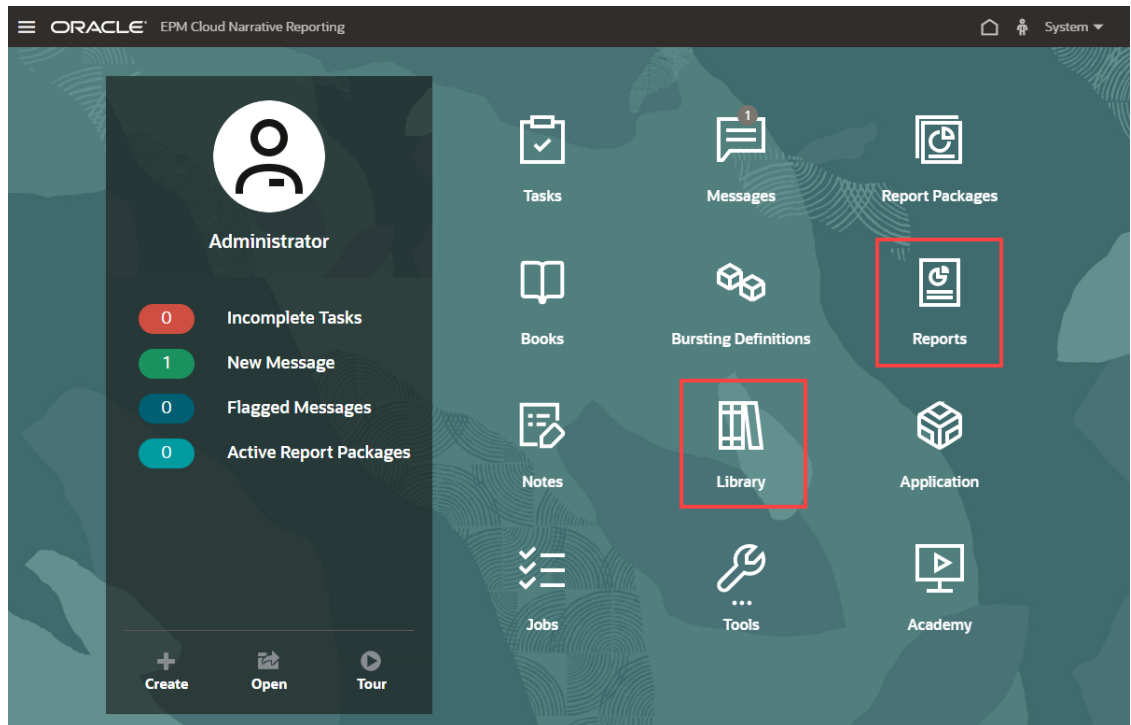
-- [Cloud EPM でのレポートの作成](#).

レポートへのアクセス

レポートにアクセスするには、ホーム・ページで「レポート」カードまたは「ライブラリ」カードを選択します。

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

Narrative Reporting からレポートにアクセスするには、Narrative Reporting へようこそおよびライブラリについてを参照してください。この2つの場所では、Narrative Reporting でシステム生成された「レポート」フォルダから、自分が作成またはアクセス権(表示権限)が付与されたライブラリの個人用のフォルダから、および下のイメージに示すようなホーム・ページから「レポート」または「ライブラリ」のアイコンを選択することで、レポートにアクセスする方法について詳細を確認できます。



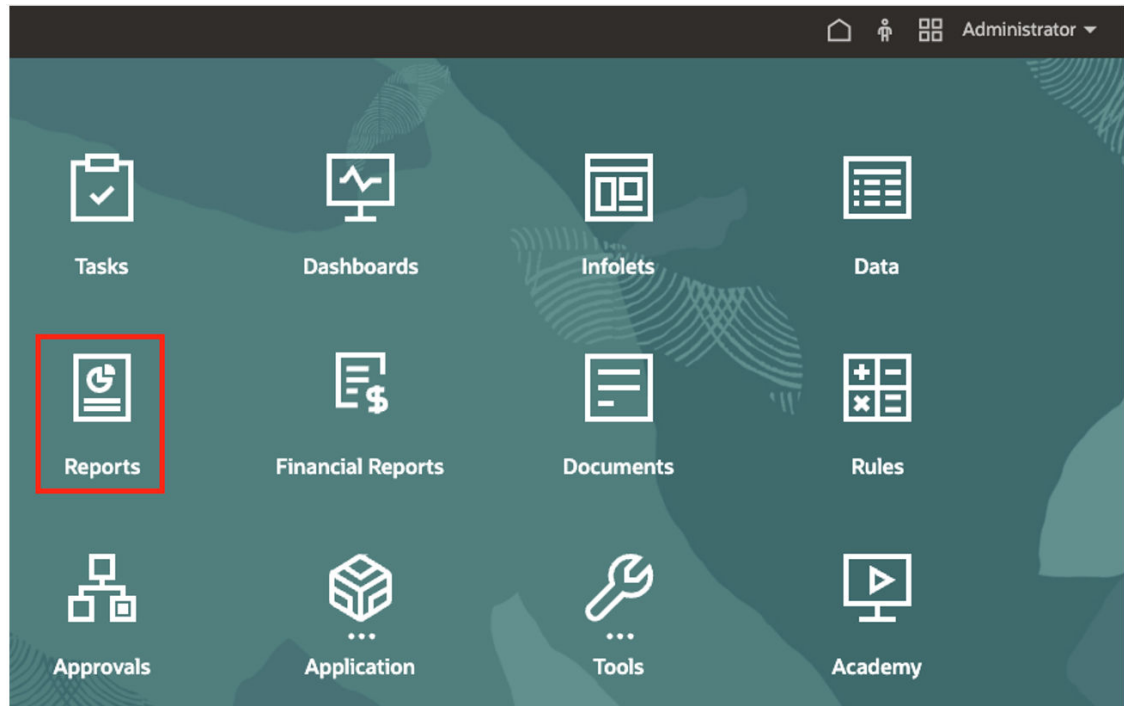
次のチュートリアル・ビデオを視聴して、レポートをリファレンス・ドックレットとしてレポート・パッケージに挿入する方法を学習します。これにより、グリッドおよびチャートのコンテンツをドックレットに埋め込むことができます。

 -- [Narrative Reporting](#) でのレポートの表示および操作.

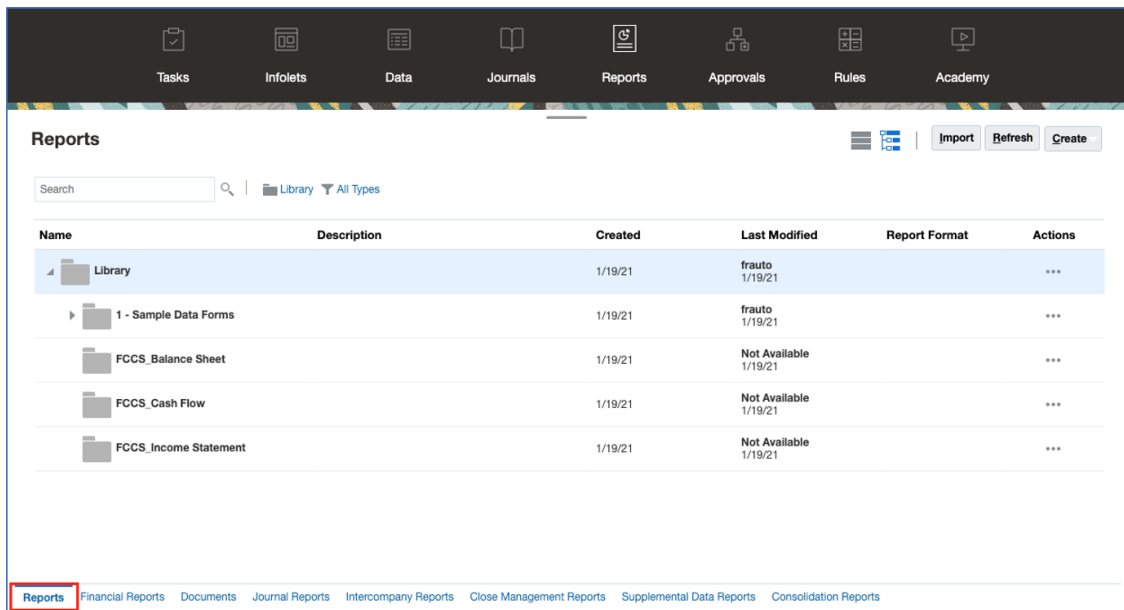
Word ベースおよび PDF ベースのレポート・パッケージの場合は、コンテンツを Word ドックレットに埋め込むことができます。PowerPoint ベースのレポート・パッケージの場合は、コンテンツを PowerPoint ドックレットに埋め込むことができます。PDF ベースのレポート・パッケージの場合は、レポートをドックレットとして直接挿入することもできます。

Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・サービスのホーム・ページで「レポート」カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから「レポート」を選択します。



Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから「レポート」を選択します。



レポートのプレビュー

次も参照:

- [レポートのプレビューについて](#)
- [グローバル POV のメンバーの選択](#)

- [ローカル POV のメンバーの選択](#)
- [有効な交差の操作](#)
- [レポート・プロンプトへの応答](#)
- [親メンバーのズーム](#)
- [コンテンツへのドリル、ドリル・スルー、セルの添付およびコメント](#)
- [レポートの POV のプレビュー](#)
- [条件付きテキストのドリル](#)

レポートのプレビューについて

参照者ロールまたはユーザー・ロールがある場合、レポート設計者によって設定された選択内容およびオプションによって、レポートのプレビュー時に各ディメンションのメンバーを選択できます。

メンバー・セレクトタに表示されるメンバーは、データ・ソースで定義されているユーザーのメタデータ・セキュリティによって異なります。メタデータ・セキュリティがディメンションのメンバーのデータ・ソースで適用されている場合は、ディメンションのメンバーへのアクセス権がないユーザーがレポートにアクセスすると、"メンバーが見つかりません"というエラーが発生することがあります。

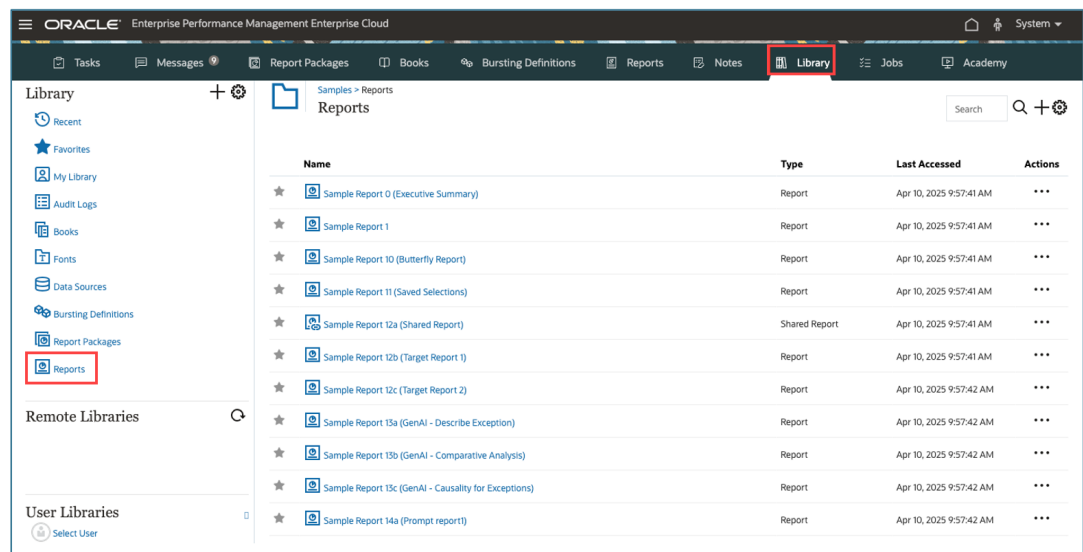
グローバル POV のディメンションはレポートの上部に表示され、ローカル POV のディメンションは、そのディメンションの対応するグリッドまたはチャート(HTML プレビューのみ)の上部に表示されます。POV の概要を参照してください。

レポート設計者がグローバル POV、グリッド列、グリッド行にプロンプトを追加している場合、レポートのプレビュー時にプロンプトに応答します。

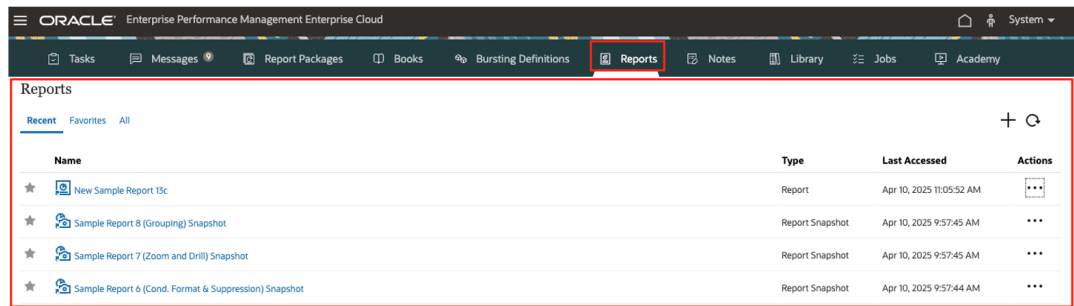
Narrative Reporting デプロイメントのレポートのプレビュー

ホーム・ページから Narrative Reporting デプロイメントのレポートをプレビューするには、次のいずれかを実行します。

- 「ライブラリ」カードからレポートを選択します。



- 「レポート」カードからレポートを選択します。



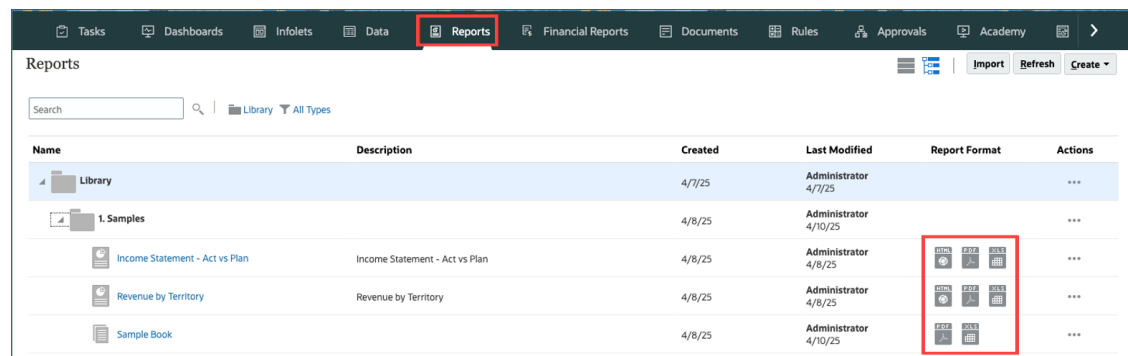
Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントでのレポートのプレビュー

Oracle Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントでレポートをプレビューす



るには、ホーム・ページで「レポート」カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュールで、左ペインから「レポート」アイコンを選択します。Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから「レポート」を選択します。


- 「レポート」リストからレポートを選択します。
- 「HTML」、「PDF」または「Excel」プレビューのいずれかを選択します。



グローバル POV のメンバーの選択

グローバル POV のメンバーを選択するには:

- レポートの上部にある POV バーで、メンバーを選択するために使用可能なディメンション・ラベルをクリックします。
POV ディメンションが使用不可(灰色のラベル)になっている場合は、そのディメンションの選択を変更できません。
- POV メンバー・リストに単一のメンバーが表示されている(レポート設計者が単一のメンバーを選択した)場合は、プレビューから POV バーでメンバーをクリックし、「すべてのメン



「バー...」を選択するか、、「メンバーの選択...」の順に選択し、追加のメンバーを選択するためのメンバー・セレクト・ダイアログをオープンすることで、そのディメンションについて選択を実行します。

同じディメンションに対して最近選択したメンバーもリストされます。

3. POV メンバー・リストに複数のメンバーがリストされている場合は、リストから単一のメンバーを選択します。
4. レポート設計者がディメンションに対する追加の選択を有効にした場合は、「すべてのメンバー...」をクリックしてメンバー・セレクト・ダイアログをオープンし、ディメンションに追加のメンバーを選択できます。
5. 複数の選択があるディメンションに対して設計者が「すべての選択の印刷」を有効にして、レポートが PDF でプレビューされている場合は、レポートがメンバー選択ごとに個別のページに表示されるため、ディメンションは POV バーに表示されません。
6. **オプション:** 該当する場合は、その他のグローバル POV ディメンションについてメンバーの選択を繰り返します。

① ノート

- グローバル POV で選択されたメンバーは、同じデータ・ソースのレポートの将来のセッションのためにユーザーごとに保存されます。ディメンションに以前に選択したメンバーは、同じデータ・ソースに対する別のレポートをオープンしたときにデフォルトで選択されます。
- 属性ディメンションがグローバル POV にある場合、レポートの設計者は属性ディメンションを最初のレポート問合せから除外することを選択できます。これにより、属性ディメンションには選択に対して-が表示されるようになります。POV メンバーを選択できます。属性ディメンションはレポート問合せに含まれます。「除外」が有効になっているときに、属性ディメンションに対する POV の選択内容は、この後のセッションには保存されていません。プレビューを再実行すると、選択内容は-にリセットされます。
- レポート結果が大きすぎてブラウザにレンダリングできない場合は、レポートを PDF としてダウンロードするように求めるプロンプトが表示されるため、ダウン

ロードする場合は  を選択し、操作を取り消す場合は  を選択します。

- レポート視点の選択としておよびプロンプト内で代替変数およびユーザー変数が使用される場合、変数値は、システムがデータ・ソースに最初に接続するときに取得されます。メンバー・セレクトまたは POV(あるいはその両方)に変数の値が表示されます。レポートの実行時に、最新の変数値が取得されます。ただし、ユーザーのセッション中に変数値が変更された場合、ユーザーがログアウトしてから再度ログインして新しいセッションに再接続するまで、変更はメンバー・セレクトまたは POV に表示される変数値に反映されません。
- メンバー・セレクトを使用して、メンバー数が 25,000 を超えるディメンションの POV を選択する場合、メンバー・セレクト内の検索はメンバー名のみ(別名ではない)に基づき、「次を含む」ではなく「次で始まる」タイプの検索が実行されます。

ローカル POV のメンバーの選択

ローカル POV のメンバーを選択するには:

1. レポートを HTML プレビューでプレビューします(ローカル POV は PDF プレビューでは使用できません)。ローカル POV ディメンションがあるグリッドまたはチャートの上部で、メンバーを選択するために使用可能なディメンション・ラベルをクリックします。
POV ディメンションが使用不可(灰色のラベル)になっている場合は、そのディメンションの選択を変更できません。
2. POV メンバー・リストに単一のメンバーが表示されている(レポート設計者が単一のメンバーを選択した)場合は、「**すべてのメンバー...**」をクリックし、追加のメンバーを選択するためのメンバー・セレクタ・ダイアログをオープンします。
同じディメンションに対して最近選択したメンバーもリストされます。
3. POV メンバー・リストに複数のメンバーがリストされている場合は、リストから単一のメンバーを選択します。
4. レポート設計者がディメンションに対する追加の選択を有効にした場合は、「**すべてのメンバー...**」をクリックしてメンバー・セレクタ・ダイアログをオープンし、ディメンションに追加のメンバーを選択できます。
5. **オプション:** 該当する場合は、その他のローカル POV ディメンションについてメンバーの選択を繰り返します。
6. ローカル POV で選択したメンバーは、別のレポートをオープンしたときには保存されていません。ローカル POV での選択は、単一のレポートの現在のセッションにのみ適用されます。

有効な交差の操作

次のトピックを参照してください:

- [有効な交差について](#)
- [視点からの有効な交差についての理解](#)
- [グリッド・データでの有効な交差についての理解](#)

有効な交差について

Cloud EPM プラットフォーム・ビジネス・プロセスでは、有効な交差ルールを含めるようアプリケーションを設定できます。たとえば、特定の**製品**が特定の**エンティティ**に対してのみ有効になるよう指定できます。また、有効な交差は、有効な交差ルールが定義されているディメンション間に視点(POV)メンバー・フィルタ処理を提供します。たとえば、「**Entity**」ディメンションでメンバーを選択したときに、「**Product**」ディメンションには、選択した「**Entity**」に対して有効なメンバーしかリストされません。

データ入力フォームで有効な交差を使用すると、ユーザーが表示または入力できるデータを事前定義された有効な交差のデータに限定できます。レポートでは、レポートをプレビューするときに、有効な交差に対して POV メンバー・フィルタ処理が有効になり、グリッド・データには有効な交差のみが表示されます。

Note

- 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理はレポート・グリッドでのみサポートされます。ブックおよびバースティング定義はサポートされていないため、有効な交差の POV メンバーのフィルタ処理は行われません。
- 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理がサポートされるのは、POV バーでメンバーを選択した場合のみで、プロンプトで POV メンバーを選択した場合はサポートされません。
- 有効な交差ルール内のメンバー値を持つ**代替変数**および**ユーザー変数**は POV メンバー・フィルタ処理ではサポートされません。

レポートをプレビューするときに POV ディメンションのメンバーを無効なメンバーを含めてすべて表示するには、対象ディメンションの POV ドロップダウン・リストまたは POV メンバー・セレクトで「**無効なメンバーの表示**」を選択します。有効または無効の交差を表示するには、レポート・プレビューでレポートの「**処理**」メニューを使用して、「**有効な交差のみを表示**」プリファレンスを選択または選択解除します。このプリファレンスはデフォルトでは選択されておらず、そのユーザーの同じデータ・ソースに接続するすべてのレポートに適用されません。

Note

- 有効な交差の POV メンバー・フィルタ処理では追加の処理が発生するため、有効な交差を有効にして POV にアクセスするとパフォーマンスに影響することがあります。有効な交差ルール内のディメンションの数および定義されているルールの数によってはパフォーマンスに影響が生じることがあります。
- 有効な交差ルールをメンバー数が 25,000 を超える POV ディメンションに対して作成し、「**有効な交差のみを表示**」を有効にした場合、メンバー・セレクトで有効なメンバーが、階層表示ではなくフラット・リストとしてレポートに表示されません。

- 次の 2 つの項では、POV メンバー選択での有効な交差の操作およびレポート内のデータの操作について説明します:
 - [視点からの有効な交差についての理解](#)
 - [グリッド・データでの有効な交差についての理解](#)
- この例では、Cloud EPM ビジネス・プロセス・アプリケーションに次のように有効な交差ルールが設定されています。[有効な交差ルール](#)は有効な交差ルールの例を示しています。
- 「Entity」ディメンションで「**403: Sales**」メンバーが選択されているときに、「Product」ディメンション内のすべての製品が選択可能になります。
- 「Entity」ディメンションで「**410: International Sales**」メンバーが選択されているときに、「**P_260: Game**」、「**P_270: Camera**」および「**P_280: Television**」は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。
- 「Entity」ディメンションで「**421: Sales North East**」メンバーが選択されているときに、メンバー「**P_220: Software Suite**」および「**P_250: Network Card**」は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。

有効な交差ルール

Region-Product

Tap description to edit

Enabled

Definition Type Valid Intersection

Entity	Product	
Children(403) 410, 421	IDescendants(P_TP)	✗
410	IDescendants(P_TP) P_260, P_270, P_280	✗
421	IDescendants(P_TP) P_220, P_250	✗

Related Topics

- [視点からの有効な交差についての理解](#)
- [グリッド・データでの有効な交差についての理解](#)

視点からの有効な交差についての理解


この例では、「Entity」ディメンションと「Product」ディメンションのメンバーを選択し、有効な交差ルールの範囲内でレポートのPOVを変更します。

Note

この例で使用されている有効な交差ルールは、[有効な交差について](#)を参照してください。

次のグリッド設計には、変更可能な「Entity」ディメンションと「Product」ディメンションがPOVに含まれており、次が選択されています：

- Entity: 「403: Sales」、 「410: International Sales」、 「421: Sales North East」
- Product: 「Children of P_TP2」。 前述の有効な交差ルールで説明されている P_2*メンバーが含まれています。

Scenario	Version	Year	HSP_View	Entity	Product
Plan	Working	FY15	BaseData	403,421,410	Children of P_TP2
A1					
		A	B	C	D
		Q1	Q2	Q3	Q4
1	4001	#	#	#	#
2	5000	#	#	#	#
3	GP	#	#	#	#

有効な交差ルールに従い、次のようになります:

- 「Entity」ディメンションで「403: Sales」メンバーが選択されているときに、「Product」ディメンション内のすべての製品が選択可能になります。「Product」ディメンションのPOV選択として「Children of P_TP2」が定義されているため、それらのメンバーのみがレポートの実行時に表示されます。例:

Entity
403: Sales

Product
P_220: Software Suite

🔍 ⚙️

🕒 P_230
Monitor

P_240
Modem

🕒 P_250
Network Card

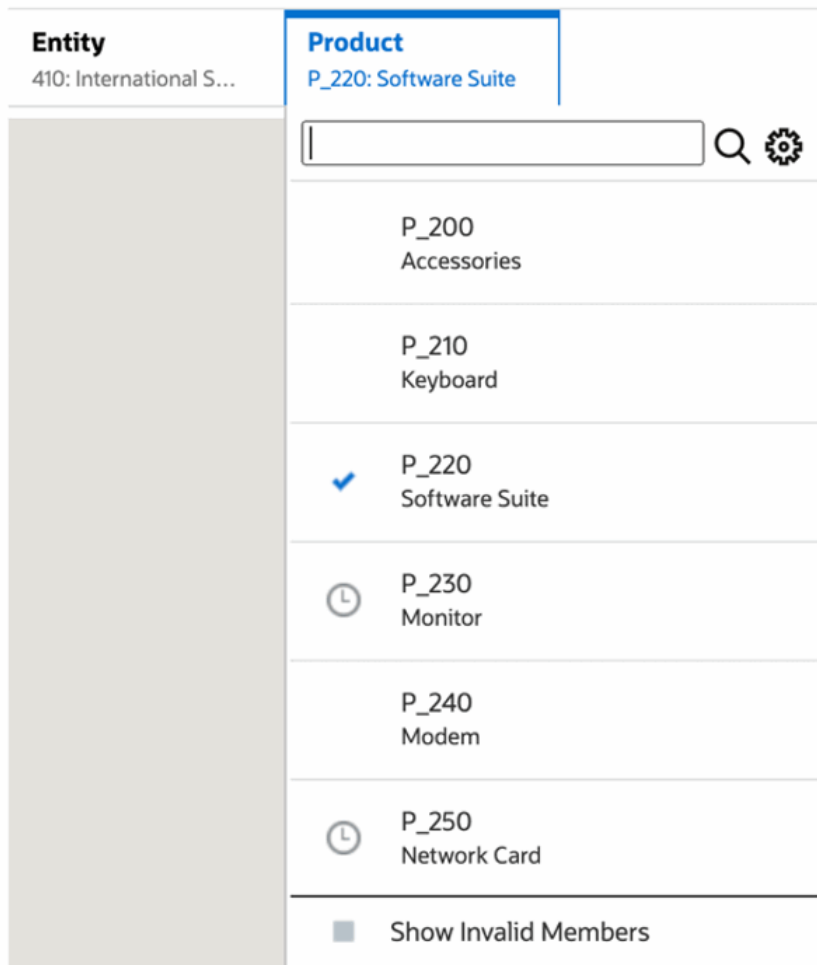
🕒 P_260
Game

🕒 P_270
Camera







🕒 P_280
Television

Show Invalid Members

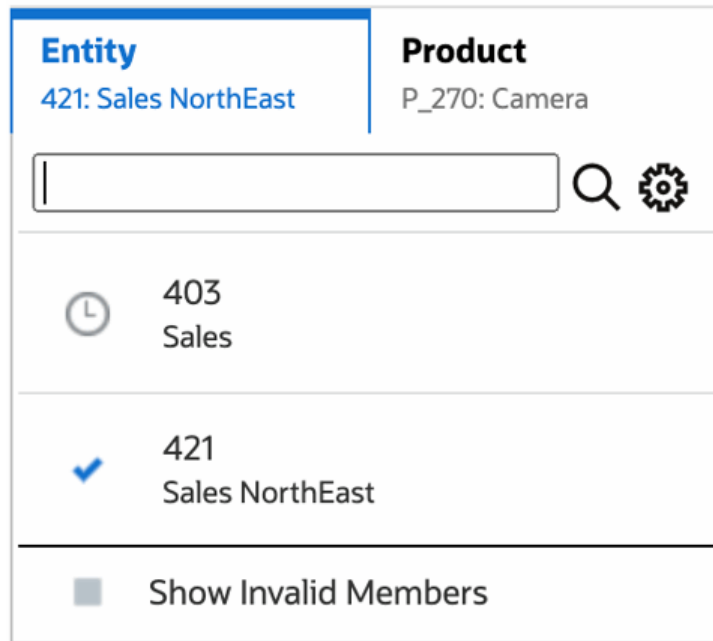
- 「Entity」ディメンションで「410: International Sales」メンバーが選択されているときに、「P_260: Game」、「P_270: Camera」および「P_280: Television」は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。例:



- 「Entity」ディメンションで「421: Sales North East」メンバーが選択されているときに、メンバー「P_220: Software Suite」および「P_250: Network Card」は選択不可になります。その他のすべてのメンバーは選択可能になります。例:

Entity 421: Sales NorthEast	Product P_220: Software Suite
	<input type="text"/>  
	P_210 Keyboard
	 P_230 Monitor
	P_240 Modem
	 P_260 Game
	 P_270 Camera
	 P_280 Television
	<input type="checkbox"/> Show Invalid Members

表示中の POV ディメンションでは有効でない別のディメンション内の POV メンバーを選択する際、すべてのメンバーを表示するには、POV リストまたはメンバー・セクタで「無効なメンバーの表示」を選択します。たとえば、Entity「421: Sales North East」メンバーと Product「P_270: Camera」が選択されているとき、「Entity」POV リストに「410: International Sales」メンバーは表示されません。同メンバーは Product「P_270: Camera」に対して有効ではないためです。

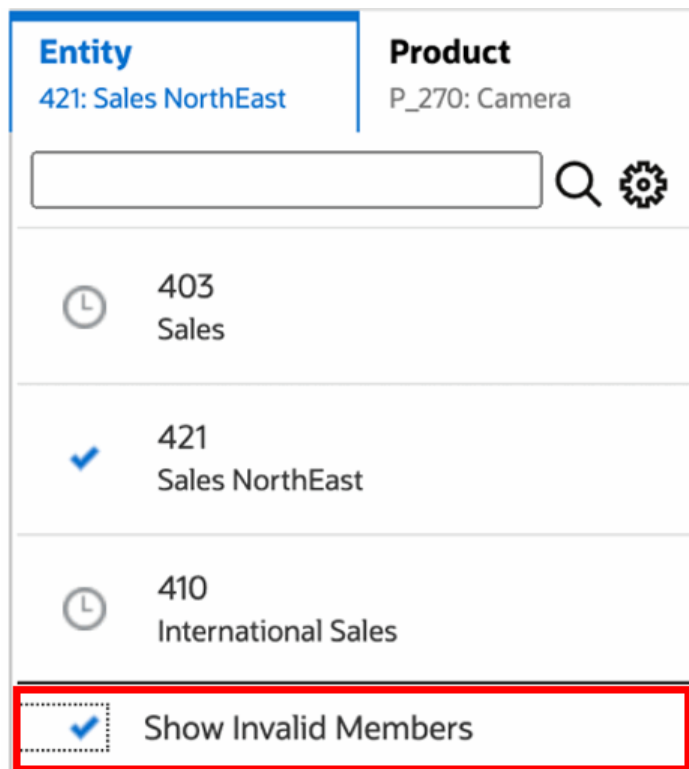


The screenshot shows the Oracle report preview interface. At the top, there are two tabs: "Entity" (selected) and "Product". Under "Entity", the value "421: Sales NorthEast" is displayed. Under "Product", the value "P_270: Camera" is displayed. Below the tabs is a search bar with a magnifying glass icon and a gear icon. The main content area displays a list of entities:

Entity
403 Sales
421 Sales NorthEast

At the bottom of the list, there is a checkbox labeled "Show Invalid Members" which is currently unchecked.

「Entity」 リストに「410: International Sales」メンバーを表示するには、「無効なメンバーの表示」を選択します。

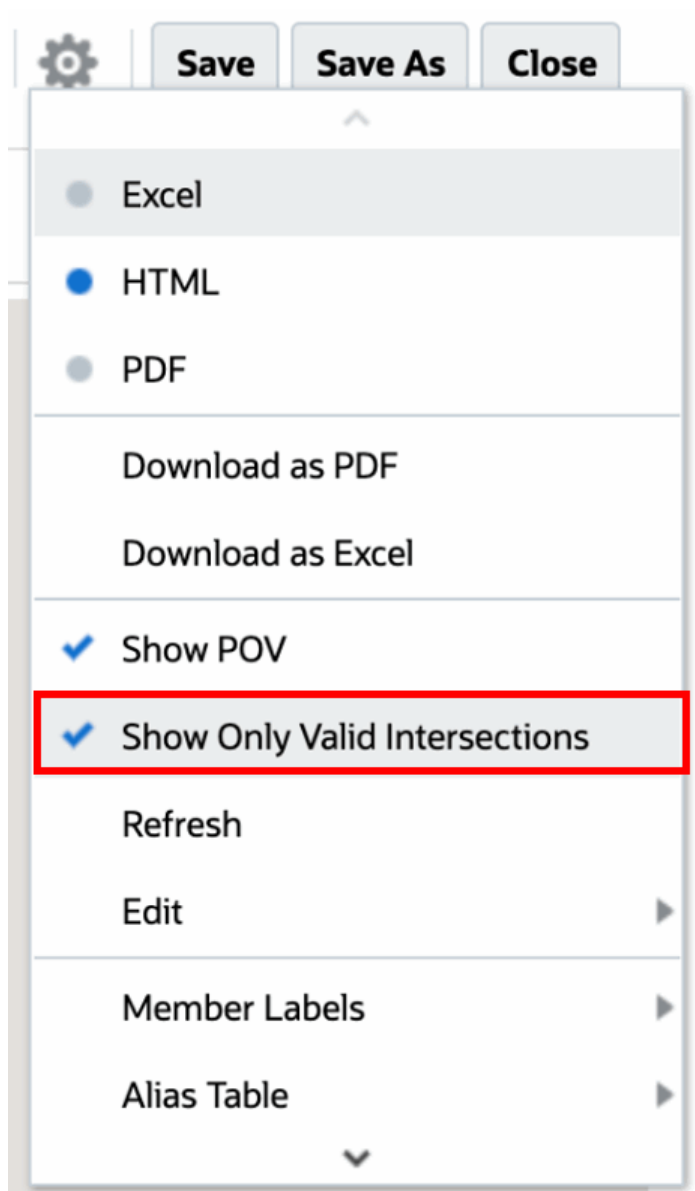


The screenshot shows the Oracle report preview interface, similar to the previous one. The "Entity" tab is selected, and the value "421: Sales NorthEast" is displayed. The "Product" tab is also selected, and the value "P_270: Camera" is displayed. The main content area displays a list of entities:

Entity
403 Sales
421 Sales NorthEast
410 International Sales

At the bottom of the list, there is a checkbox labeled "Show Invalid Members" which is now checked. This checkbox and its label are highlighted with a red border.

または、「処理」メニューを使用してレポートをプレビューしているときに、「有効な交差のみを表示」プリファレンスを選択または選択解除して、有効または無効の交差を表示することもできます。



① Note

「Entity」ディメンション「410: International Sales」と「Product」ディメンション「P_270: Camera」が選択されている場合、これは無効なデータの組合せであることから、レポートに次のメッセージが表示されます:

Entity	Product
410: International S...	P_270: Camera

No data due to invalid intersection of members on the Point Of View

グリッド・データでの有効な交差についての理解

この例は、グリッドに「Entity」および「Product」ディメンションを含むグリッドで、無効なデータの組合せが非表示になる様子を示しています。

Note

この例で使用されている有効な交差ルールは、[有効な交差について](#)を参照してください。

次のグリッド設計の内容は次のとおりです:

- 列: Entity: 「403: Sales」、「410: International Sales」、「421: Sales North East」
- 行: Product: 「Children of P_TP2」

Version	Year	HSP_View	Scenario	Period	Account
Working	FY15	BaseData	Plan	YearTotal	4001
Member and Alias for Heading		Product			Children of P_TP2 ×
		A	B	C	
		403	410	421	
1	Children of P_TP2	#	#	#	

グリッドのプレビュー時に無効な交差のデータは#MISSING と表示されます。

- 「403: Sales」メンバーがある 1 列目では、すべての製品のデータが表示されます。「403: Sales」に対してすべての製品が有効であるためです。
- 「410: International Sales」メンバーがある 2 列目では、一部の製品のデータ(「P_260: Game」、「P_270: Camera」および「P_280: Television」)が#MISSING として表示されます。それらのメンバーは「410: International Sales」に対して無効であるためです。
- 「421: Sales North East」メンバーがある 3 列目では、一部の製品(「P_220: Software Suite」および「P_250: Network Card」)のデータが#MISSING として表示されます。それらのメンバーは「421: Sales North East」に対して無効であるためです。

Version	Year	HSP_View	Scenario	Period	Account
Working	FY15	BaseData	Plan	YearTotal	4001
	403: Sales	410: International Sales	421: Sales NorthEast		
P_200: Accessories	21,463,426	2,870,809	3,523,947		
P_210: Keyboard	13,665,957	2,519,056	1,954,009		
P_220: Software Suite	17,865,738	3,016,795	#MISSING		
P_230: Monitor	11,902,983	1,991,325	1,735,706		
P_240: Modem	27,751,398	2,853,149	5,016,043		
P_250: Network Card	6,294,063	1,282,060	#MISSING		
P_260: Game	6,943,600	#MISSING	1,534,797		
P_270: Camera	3,251,232	#MISSING	462,498		
P_280: Television	25,027,563	#MISSING	3,992,870		

レポート・プロンプトへの応答

(「すべての選択の印刷」が有効化されている)グローバル POV、グリッド列またはグリッド行にレポート設計者がプロンプトを追加している場合、レポートをプレビューするときに「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスでプロンプトに対してメンバーを選択します。設計者が指定した選択リストから選択することも、設計者が選択リストを指定していなかった場合は自分がアクセス権があるディメンションのすべてのメンバーから選択することもできます。プロンプトを手動で入力することもできますが、次の動作と制限事項があります:

- 実行時プロンプト・ダイアログでプロンプトに表示されているものに基づいてメンバーの(一意の)名前または別名を入力します。表示され、プロンプト・ダイアログの手動入力に必要なメンバー・ラベル(名前または別名)は、次の条件に基づいています。
 - POV のプロンプトの場合、必要なメンバーまたは別名は、レポートを実行するユーザーが「処理」メニューで「メンバー・ラベル」に選択したプリファレンスに基づきます。レポートを開くときに「メンバー名」を選択した場合、入力にはメンバー名が必要です。プリファレンスを「別名」に切り替えてからレポートを再オープンすると、POV プロンプトにメンバー別名が必要になります。
 - グリッドの行と列のプロンプトの場合、必要なメンバーまたは別名は、レポート設計者によってプロンプトが選択されたセグメントに表示されるメンバー・ラベルに基づきます。たとえば、プロンプトが存在するメンバーの行セグメントに別名が表示される場合、結果のプロンプトではエンド・ユーザーが別名を入力する必要があります。
 - "両方"のメンバー・ラベルが「メンバー・ラベル」のユーザー・プリファレンスまたは表示されるグリッド・セグメント・メンバー・ラベルのいずれかに定義されている場合、プロンプト選択のテキスト・エントリではメンバー名と別名の両方の選択はサポートされていないため、常にプロンプトでメンバー名が必要です。

① ノート

共有メンバーを選択する場合は、ユーザー・インタフェースに表示される一意のメンバー名を入力する必要があります。

- 複数選択プロンプトの場合は、カンマをセパレータとして使用することで複数のメンバーを入力できます。メンバー名にカンマが含まれている場合は、複数のプロンプトを手動で入力するのではなく、メンバー・セレクタを使用する必要があります。

- メンバー入力では大/小文字が区別されます。
- 無効なエントリがある場合は、「取消」をクリックする以外は、ダイアログを終了する前にそれらのエントリに対処する必要があります。

このダイアログ・ボックスでは、レポート POV、グリッド行および列のプロンプトがグループ化されます。**プロンプトの例**に、レポート POV、そしてグリッド 1 の行および列でグループ化されているプロンプトの「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスの例を示します。

図 2-1 プロンプトの例

Select Members

Reset OK Cancel

Report POV

* Choose a reporting region E01,E02

Revenue by Segment


Rows

* Select one or more Segments Bookshelf Audio System,Home Theater A

Columns

* Select a Quarter Quarter1

レポート設計者がプロンプトにデフォルトのメンバーを指定している場合、それがプロンプト・フィールドに表示されます。

 をクリックしてメンバー・セレクトをオープンし、プロンプトに表示するメンバーを選択します。すべての選択をデフォルト値に戻すには「リセット」をクリックします。

① ノート

プロンプトでの選択は、レポートをプレビューしている間、現在のセッションで保持されます。

親メンバーのズーム

レポート設計者が親メンバーのズームを有効にしている場合は、HTMLでレポートをプレビューするとき、行または列を親メンバーとともに展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます(レポート設計者のズームの設定方法による)。レポート設計者は、グリッド全体または特定の行や列セグメントのズームを有効にしたり、ズームする親メンバーを選択できるアドホック分析を有効にできます。レポート設計者のズーム設定方法に応じて、ズームされたメンバーは親メンバーの前または後に表示されます。[アドホック・モードの操作](#)を参照してください。

HTMLプレビューでは、ズームが有効になっている親メンバーに ▶ アイコンが表示されます。再度ズーム・アウトするには、 ◀ をクリックします。

Zoom in on member

Zoom out on member

	January	February	March	◀ Quarter1
▶ Gross Profit	44,003,086	39,614,955	50,269,215	133,887,256
▶ Operating Expenses	30,428,078	27,371,016	33,761,234	91,560,328
◀ Pretax Income From Operations	13,575,009	12,243,939	16,507,981	42,326,928
Other Exp (Inc)	-2,745,368	-2,474,618	-2,678,195	-7,898,181
◀ Total Pretax Income	10,829,641	9,769,321	13,829,786	34,428,748
Provision for Income Tax	3,901,924	3,408,315	4,365,821	11,676,061
◀ Net Income	6,927,716	6,361,005	9,463,965	22,752,687

特定の行または列をズームすると、ズームされたメンバーはそのまま保持され、次の処理の実行時に表示されます。

- PDFプレビューへの切替え
- レポートをPDFとしてダウンロード
- レポートをスナップショットとして保存
- POVの変更

コンテンツへのドリル、ドリル・スルー、セルの添付およびコメント

レポート・デザイナーが「コンテンツへのドリル」リンクをグリッド・セルに追加した場合、またはデータ・ソースにソースまたはセル・ファイル添付(あるいはその両方)へのドリル・スルーが存在し、レポートで表示できる場合は、HTMLでレポートをプレビューするときそのリンクをクリックして、ターゲット・レポート、文書、URL、ドリル・スルーまたはセル・ファイル添付を起動できます。

1つのセルに対して複数のドリル定義が存在する場合は、ドロップダウン・ボックスにすべての定義が表示されます。起動するリンクをクリックすると、別のブラウザ・タブにターゲットが表示されます。

	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	157,041,184	100%	157,730,824	100%
Cost of Sales	106,377,180	68%	106,662,144	68%
Gross Profit	50,664,003	32%	51,068,680	32%
	GP Drill Through			
Total Compensation			11,355,750	7%
	GP Web Drill Through			
Travel			641,522	0%

レポートまたはグリッド・セルに添付されたセル・ノートまたはテキスト・コメントを表示することもできます。完全なノート・テキストを表示するには、コンテキスト・メニューの上にマウスを置きます。

次に例を示します。

1110: Cash	135.7	Balance Sheet Detail report
1150: Marketable Securities	1	Drill Through to source
2210: Accounts Payable	7	instructions.txt
1410: Inventory Material Value	112.5	
1520: PPE-Building and Improvements	1	
3500: Cumulative Translation Adjustment	5	Cash balance increased due to additional A/R colle...

レポートの POV のプレビュー

「ユーザー・プリファレンス」タブで「POVのプレビュー」を選択した場合、レポートをオープンまたはプレビューするには、



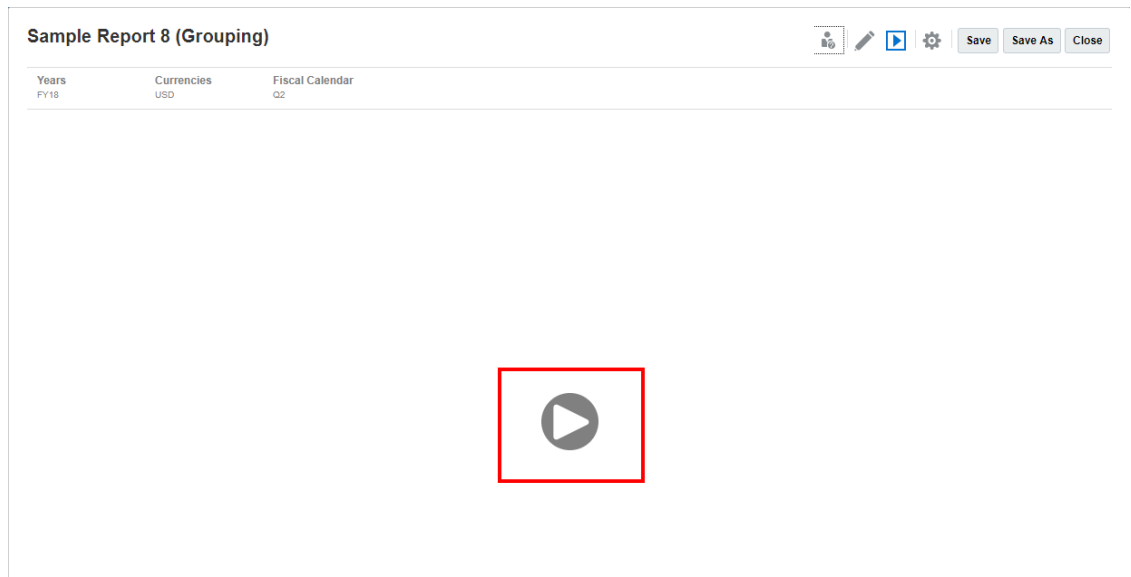
を選択してデータをリフレッシュする必要があります。

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

レポート・プリファレンス・タブに移動します。 [ユーザー・プリファレンスの管理](#)を参照してください。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合:

「ユーザー・プリファレンス」タブ、「レポート」の順に移動します。



条件付きテキストのドリル

HTML形式のレポートをプレビューするとき、テキスト・ボックスに条件付きテキストが表示されている場合は、関連するズーム対応グリッドを含む新規ブラウザ・タブにテキストからドリルして、さらに分析を行うことができます。

たとえば、サンプル・レポート 6 (条件付き書式および抑制)を使用すると、テキスト・ボックス内のすべての条件付きテキストはハイパーリンクとして表示されることに注意してください。最初の行のテキスト「**USA Revenue of 65,172,091**」をクリックすると、別のブラウザ・タブにズーム対応グリッドがオープンし、そこで親メンバーをズームして詳細データを表示できます。

ソース・ページ: ハイパーリンクとして表示された条件付きテキスト情報のすべての分析を表示できます。



Vision Operations

Revenue Variance by Territory
Jun 2018
Report Run Date: Feb 11, 2020 3:06 AM

	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6%)
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9%)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5%
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2%)
China	6,281,647	6,150,091	213.9%
Hong Kong	4,711,236	4,668,667	91.2%
Japan	3,140,824	3,078,852	201.3%
Total Entities	157,041,184	157,730,824	(43.7%)

Revenue Performance for June:

USA Revenue of 65,172,091 was (127.6%) below Plan, resulting in 41.5% of Total Revenue
 Canada Revenue of 3,140,824 was (248.9%) below Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
 Brazil Revenue of 3,140,824 was 242.5% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue
 Europe Revenue of 54,179,208 was (30.2%) below Plan, resulting in 34.5% of Total Revenue
 China Revenue of 6,281,647 was 213.9% above Plan, resulting in 4.0% of Total Revenue
 Hong Kong Revenue of 4,711,236 was 91.2% above Plan, resulting in 3.0% of Total Revenue
 Japan Revenue of 3,140,824 was 201.3% above Plan, resulting in 2.0% of Total Revenue

ターゲット・ページ: いくつかの行の親メンバーがズームされた状態のターゲット・グリッドを表示できます。

Analytics - Sample Report 6 (Cond. Format & Suppression) - Grid 1 - 0_0

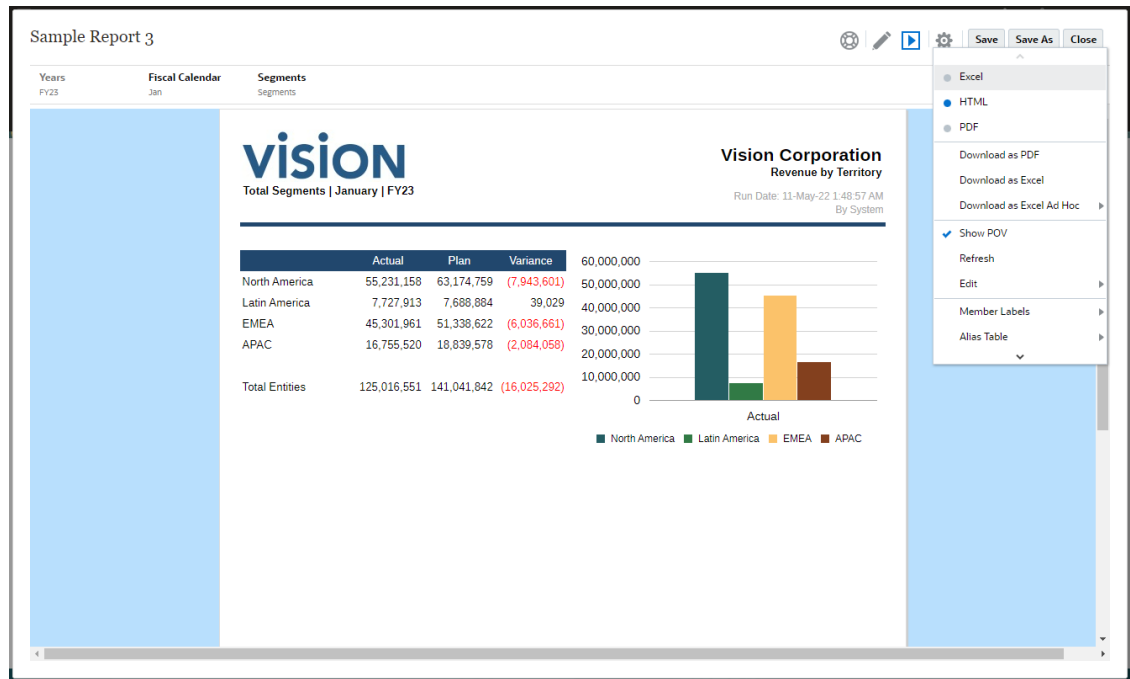
Accounts	Years	Fiscal Calendar	Segments	Currencies
410000	FY18	Jun	AllSegments	USD

	Actual	Plan	Variance %
USA	65,172,091	66,014,146	(127.6%)
USA Sales	65,172,091	66,014,146	(127.6%)
East Sales	30,623,031	30,946,729	(263.0%)
MA	10,992,883	11,311,895	(283.0%)
NY	17,274,530	17,252,195	12.9%
PA	2,355,618	2,382,639	(113.4%)
West Sales	22,770,972	23,145,230	(161.7%)
North Sales	6,281,647	6,431,556	(233.1%)
South Sales	5,496,441	5,490,630	10.6%
Canada	3,140,824	3,220,978	(248.9%)
Brazil	3,140,824	3,066,455	242.5%
Europe	54,179,208	54,343,071	(30.2%)
China	6,281,647	6,150,091	213.9%
Hong Kong	4,711,236	4,668,667	91.2%
Japan	3,140,824	3,078,852	201.3%
Total Entities	157,041,184	157,730,824	(43.7%)

レポートの表示


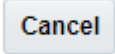
「処理」メニューを選択すると、レポートを様々な方法で表示できます。

レポートを表示している場合は、 を選択した後、次の操作を実行できます。



- Excel、「HTML」または「PDF」でレポートをオープンします。

① ノート

- レポートでは、メタデータ・キャッシュが利用され、検索などのメンバー問合せおよびメンバー選択操作が迅速になります。キャッシュが生成され、セッション中にレポートが初めてアクセスされたときに、各エンド・ユーザー用に移入されます。これにより、レポートが最初に実行される時にわずかなオーバーヘッドが発生する可能性があります。
- POV ディメンションに対して「すべての選択の印刷」が有効の場合、POV メンバーの固定リストが **PDF** または **Excel** に、各メンバーが独立したページまたはワークシートに配置された状態で出力されます。これら 2 つの形式のレポート実行時にすべてのメンバーが取得されます。**HTML** プレビューでは、最初の POV 選択のみ取得されます。
- レポートの出力は、レポートのプレビュー時に行われた選択に基づいて保持されます。たとえば、選択を「HTML」から「Excel」に変更した場合、レポートを実行するたびに出力は Excel ワークブック(Smart View でリフレッシュ不可)にレンダリングされ、ローカル・マシンにダウンロードされます。
- レポート結果が大きすぎてブラウザにレンダリングできない場合は(グリッド・セル数の制限の 180000 がある HTML または PDF サイズ制限の 10MB)、レポートを PDF としてダウンロードするように求めるプロンプトが表示されるため、ダウンロードする場合は  を選択し、操作を取り消す場合は  を選択します。
- レポートでカスタムのアップロード済フォントを使用している場合は、フォントが正しくレンダリングされるよう、使用されているすべてのカスタム・フォントをクライアント・マシンにインストールする必要があります。

- **Excel 形式でダウンロード** - レポートを Excel ワークブックとしてダウンロードでき、これは Oracle Smart View for Office でリフレッシュできます。後で POV を変更し、プロンプトに応答できます(該当する場合)。
- **Excel アドホックとしてダウンロード** - Oracle Smart View for Office で、レポート・グリッドを Excel アドホックとしてダウンロードした後、使用可能なアドホック操作を実行できます。

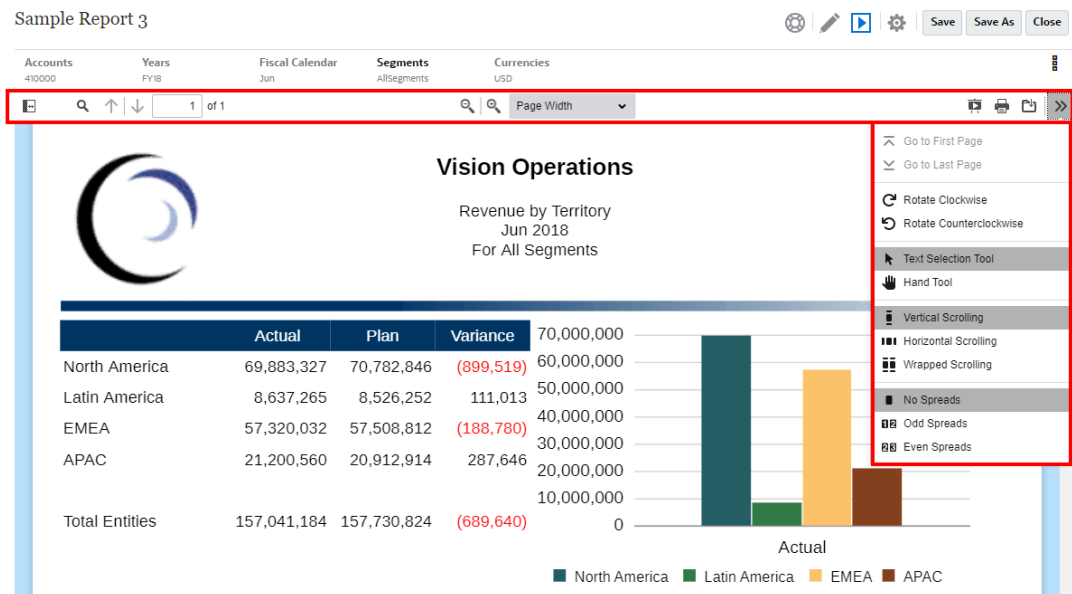
① ノート

Web ブラウザで、Smart View リンク・ファイルがダウンロードされます。ファイルをクリックして、Excel を起動します。それぞれのデータ・ソースのログイン・ページにサインオンするよう求められます。アクティブなデータ・ソース接続がすでに存在する場合、サインオン・ダイアログは表示されません。

詳細は、[Smart View でのレポートの操作](#)を参照してください

- **PDF としてダウンロード** - レポートを PDF としてダウンロードできます。
レポートの PDF プレビューには次の機能があります。
 - サムネイル・サイドバーの切替え

- 文書内のテキストの検索
- 前/次のページへの移動
- 入力されたページ番号への移動
- 「ズーム・イン」/「ズーム・アウト」ボタン
- ズーム・レベルの選択(例: %s、自動、「ページ幅」など)
- プレゼンテーション・モードに切替え
- 文書の印刷
- 文書のダウンロード
- 他のナビゲーションおよび表示ツール



- POV バーを表示または非表示にします。
- レポートをリフレッシュします。
- メンバー名、別名または両方を使用するメンバーの表示方法を選択します。
レポートに使用する別名表も選択できます。
- 書込みアクセス権が付与されているフォルダにレポートをスナップショットとして保存、またはレポートをライブラリの「マイ・ライブラリ」フォルダに保存します。

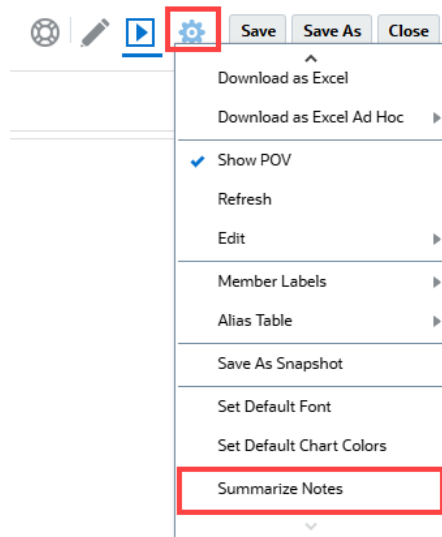
① ノート

レポートにコンテンツへのドリル、セルの添付またはコメント(あるいはその両方)が定義されている場合、スナップショットへの保存処理に時間がかかることがあります。これは、外部コンテンツへのドリル・リンクはすべて、保存時に取得および処理する必要があるためです。

- レポート設計者がアドホック・モードを有効にしている場合は、レポートのグリッドにズーム・オプションを設定します。

[アドホック・モードの操作](#)を参照してください。

- Narrative Reporting デプロイメントで、レポートに「ノート」が存在し、システムで生成 AI (GenAI) が有効になっている場合は、「ノートのサマリー」を選択できます。



① ノート




の「HTML」または「PDF」、「POV の表示」、「メンバー・ラベル」、「別名表」および「ズーム」設定の選択内容は、そのユーザーの将来のセッションのために保存されます。

アドホック・モードの操作

レポート設計者がレポートに対してアドホック・モードを有効にしている場合は、レポート内のすべてのグリッドで親メンバーにズーム・インできます。ズームすると、HTML でレポートをプレビューするときに、行または列の親メンバーを展開して、その子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。ズーム機能を使用する前に、ズーム・オプションを設定する必要があります。

アドホック・モードで操作するには:

1.  メニューから、**ズーム・オプション**を選択します。(下にスクロールしてメニュー項目を表示する必要がある場合があります。)

① ノート

レポート設計者がレポートに対してアドホック分析を有効にしていない場合、**ズーム・オプション**・メニュー項目は表示されません。

2. ズーム・レベルを設定するには、「ズーム」の横にある「オフ」をクリックし、有効にするズーム・レベルを選択します。
 - オフ(デフォルト)

- 子にズーム
 - 最下部にズーム
 - 子孫にズーム
3. **前にズーム**で、クリックして「**False**」(ズーム・インされたメンバーを親メンバーの後に表示)と「**True**」(ズーム・インされたメンバーを親メンバーの前に表示)を切り替えます。

ズーム・オプションは、将来のセッションでアドホック・モードが有効になったレポートで再利用するために、ユーザーごとにプリファレンスとして保存されます。

Smart View でのレポートの操作

レポートでは次のことができます。

- レポートを Excel ワークブックとしてダウンロードします。これは Oracle Smart View for Office でリフレッシュできます。後で POV を変更し、プロンプトに応答できます(該当する場合)。
- Smart View で Excel アドホックとしてレポート・グリッドをダウンロードし、使用可能なアドホック操作を実行できます。

Smart View for Excel では次のことができます:

- Excel ワークブックとしてレポートをインポートします。
- アドホック・グリッドとしてレポートのグリッドをインポートし、直接データ・ソースを対象にピボットやメンバー選択などのサポートされるアドホック操作をグリッド上で実行します。グリッドを保存して、レポート・パッケージ・ドキュメントの埋込みコンテンツ用のソースとして使用できます。Smart View でのレポートの操作を参照してください。

関連トピック:

- [「Excel 形式でダウンロード」の操作](#)
- [Excel アドホックとしてのグリッドのダウンロードの操作](#)

「Excel 形式でダウンロード」の操作

- レポートを Excel にダウンロードすると、新しい Excel ワークブックが作成されます。レポートの 1 つ以上の POV ディメンションで「すべての選択の印刷」が有効になっている場合、レポートの各メンバーの組合せに対してそれぞれの印刷可能なページが別々のワークシートを生成します。

① ノート

ワークシート名はレポート名を反映し、「すべての選択の印刷」が設定された最初の POV ディメンションが後に続き、Excel の 31 文字の制限を満たすように必要に応じてシート名が切り捨てられます。

- Smart View で Narrative Reporting に接続すると、レポートの「リフレッシュ」が使用可能になり、該当する場合は POV の変更およびプロンプトへの応答を実行できます。
- Excel との間でのレポートのインポートまたはエクスポートで 3 桁区切りおよび小数点記号が正確に表示されるには、データ書式設定に関連するユーザーの Windows 地域設定、および 3 桁区切りおよび小数点記号についての Excel 拡張データ書式設定オプションが、

Excel での正しいレンダリングのための 3 桁区切りおよび小数点記号についてのレポート・デザイナーでの指定と同じである必要があります。

- Smart View にアクティブな接続がない場合、レポートはリフレッシュ・オプションがない静的レポートをオープンします。
- レポートのテキスト・ボックスは、インポートされた Excel ワークシートのイメージに変換されます。場合によっては、レポートの表示にあわせて Excel のイメージ・ボックスのサイズを手動で変更する必要があります。

① ノート

テキスト・ボックス内で使用されるフォントがクライアント・マシンにインストールされていない場合、Excel にインポートまたはエクスポートしたときにレポート・テキスト・ボックスがゆがんで表示されたり、テキストが重なって表示される場合があります。これを修正するには、テキスト・ボックス内で使用されている欠落フォントをクライアント・マシンにインストールします。

- グリッドのデータ値は、セルの数値書式設定で定義されたとおりに、スケーリングされた値としてグリッドから Excel にインポートされます。グリッドの基礎となるスケーリングされていないデータ値は、Excel に引き継がれません。

たとえば、レポート・グリッドの基礎となるスケーリングされていないデータ値が "138,552,696" であり、セルの数値書式設定が "千" でスケーリングされる場合、Excel のレポート・プレビューでは値が "138,552" と表示されます。"138,552" がセルに表示され、算式バーには書式設定されていない値の "138552" が表示されます。

レポートと Excel にレンダリングされたレポートの相違の詳細は、*レポートの設計* のレポートと Excel にインポートされたレポートの相違を参照してください。

① ノート

ワークシートで Excel によってサポートされている行および列の最大数は、**1,048,576** 行および **16,384** 列です。Excel へのレポートのエクスポートは、この制限を超えるとエラーになることがあります。

Excel アドホックとしてのグリッドのダウンロードの操作

グリッドを Excel アドホックとしてダウンロードすると、Web ブラウザで Smart View リンク・ファイルがダウンロードされます。ファイルをクリックして、Excel を起動します。それぞれのデータ・ソースのログイン・ページにサインオンするよう求められます。アクティブなデータ・ソース接続がすでに存在する場合、サインオン・ダイアログは表示されません。

- Web でレポートを表示しているときは、「Excel アドホックとしてダウンロード」オプションは「HTML」プレビューでのみ使用できます。
- レポートの書式設定は、Excel で保持されません。
- Excel での出力データは、Smart View のオプションに基づきます。書式設定に関するすべての設定を確認します。詳細は、[Smart View のオプションの設定](#)を参照してください。
- この機能は、非表示のグリッドでは使用できません。

ノートの操作

ノートにより、エンド・ユーザーがノート・ボックスで、またはノート行やノート列を利用してグリッドにインラインで、レポートに **POV** ベースのナラティブ・テキストを入力するための構造化ソリューションが提供されます。

ノート・ボックスは、グリッドやチャートとともに、書式設定されたレポートにノートを表示します。レポート構造およびナラティブの要件がエンティティ、部門などの間で統一されている場合、ノート・ボックスを利用できます。レポートでは、**HTML** でレポートをプレビュー中に、レポート設計者によってノート・テンプレートが挿入されたノート・ボックスにノートを入力できます。

ノート列またはノート行からのノートのインライン・グリッド・エントリでは、**HTML** でレポートをプレビューしながら、**POV** ベースのコメントをグリッドに直接入力および表示できます。

ノートは、**ノート・テンプレート**(ノートおよび **POV** 選択ごとに 1 つのテンプレート)でレポートに表示するか、または**ノート・テキスト関数**または **GridNotes** テキスト関数を使用してレポートに表示できます。

ノート・テキスト関数は、ノートをテキスト・ボックスでレポートに表示する堅牢かつ柔軟な方法を提供します。

GridNotes テキスト関数は、グリッドのテキスト行、テキスト列またはテキスト・セルに、グリッドの **POV** に基づいてノートを表示します。

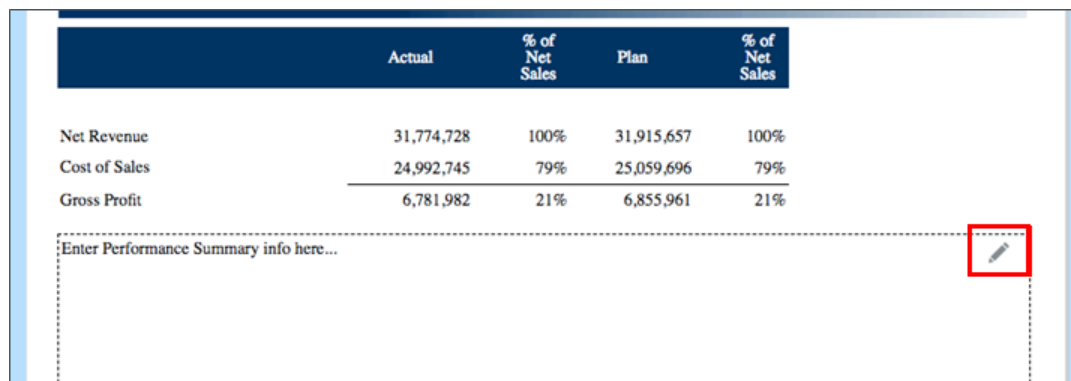
① ノート

この機能は、Narrative Reporting デプロイメントでのみ使用可能です。

レポート・プレビューにおけるノート・テキストの入力

レポートのプレビュー時にノート・テキストを入力します。
レポートのノート・ボックスにノート・テキストを入力するには:

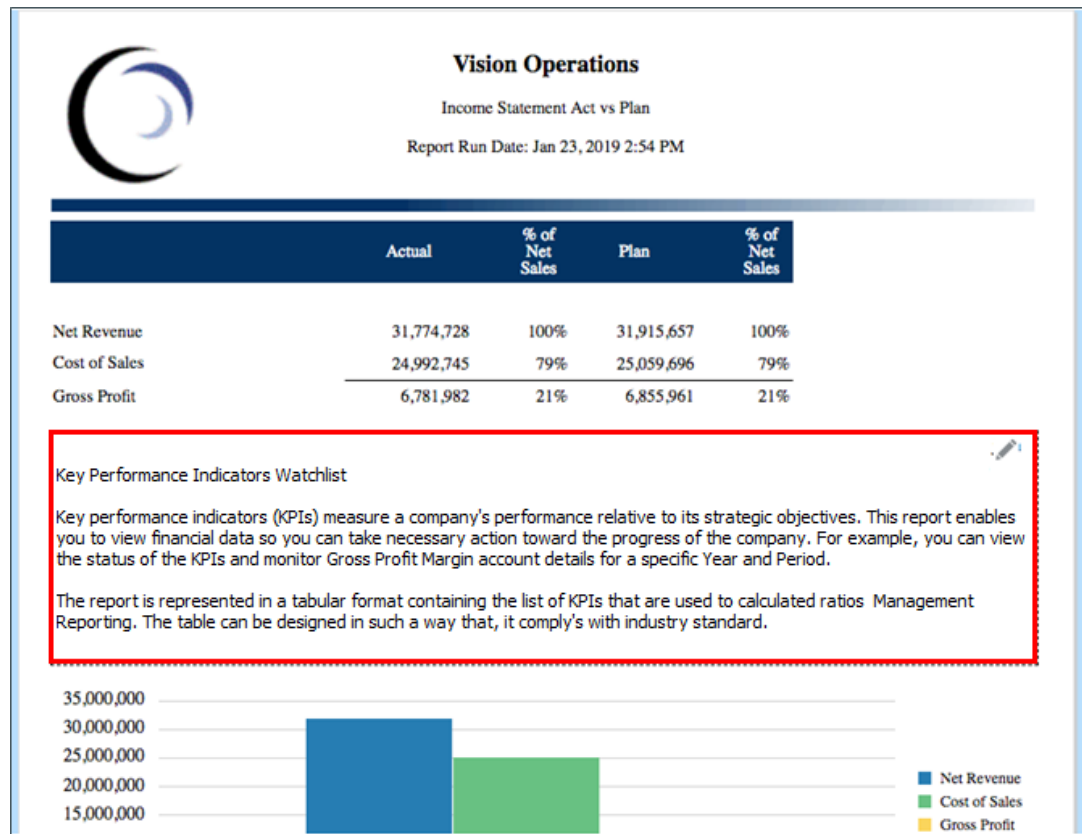
1. レポートを **HTML** で「**プレビュー**」し、レポートについて必要な **POV** を選択できます。
2. 「**ノート**」の右上にある「**編集**」をクリックして、「**ノート**」エディタをオープンします。



	Actual	% of Net Sales	Plan	% of Net Sales
Net Revenue	31,774,728	100%	31,915,657	100%
Cost of Sales	24,992,745	79%	25,059,696	79%
Gross Profit	6,781,982	21%	6,855,961	21%

Enter Performance Summary info here...

- 「ノート」エディタが表示され、ここでテキストを入力したり、必要に応じて書式設定をし、「OK」をクリックしてノートを提出します。
- ノート・テキストがレポート・プレビューに表示されます。



インライン・グリッドによるノート・テキストの入力

インライン・グリッドを使用したノート・テキストの入力。

① Note

ノート行またはノート列セグメントに「ノート」を入力するとき、「ノート」エントリ・ボックスを使用すると、ノート内に入力されたテキストに異なるフォント書式を定義できます(たとえば、フォント・タイプとサイズ、太字、斜体、下線など)。ただし、グリッド・セルでは、ノート・セルの**セルの書式設定**プロパティで定義されている単一のフォント書式のみがサポートされるため、「ノート」エントリ・ボックスに入力した書式は、ノート行または列セグメントに表示されません。

- レポートを HTML で「プレビュー」し、レポートについて必要な POV を選択できます。
- グリッドのノート・セルで、ノート・セルの右上にある「編集」をクリックし、ノート・エディタをオープンします。

	Actual	Plan	Variance	Comments
North America	11,184,452	11,327,818	(143,365)	
Latin America	1,382,348	1,364,680	17,668	
EMEA	9,173,764	9,203,818	(30,053)	
APAC	3,393,036	3,347,275	45,761	
Total Entities	25,133,601	25,243,590	(109,989)	

3. ノート・エディタが表示されたら、テキストを入力し、「OK」をクリックしてノートを提出できます。

Entity Variance Description



OK

Cancel

✖ 📄 📄 📄 ↶ ↷ B I U ↶ X₂ X² I_x ≡ ≡ ≡

Default - "Liberation Sans" ▾ Default - "10" ▾ A ▾ 🖌 ▾ 🔍 ?

Although our sales were slightly off from Plan for the first six months, overall we continued to track the seasonality trend reflected in our plan.

4. ノート・テキストがノート・セルに表示されます。

	Actual	Plan	Variance	Comments
North America	11,184,452	11,327,818	(143,365)	Although our sales were slightly off from Plan for the first six months, overall we continued to track the seasonality trend reflected in our plan.
Latin America	1,382,348	1,364,680	17,668	
EMEA	9,173,764	9,203,818	(30,053)	
APAC	3,393,036	3,347,275	45,761	
Total Entities	25,133,601	25,243,590	(109,989)	

ノート・テキスト・ボックスの操作

テキスト・ボックスがデータ・ソースに対応(つまり、テキスト・ボックスで POV が有効化および定義され)し、かつそこにノート・テキスト関数が挿入されている場合は、ディメンションのセカンダリ POV から選択して、メイン POV 選択に基づいて子、子孫または最下部レベルのメンバーを表示できます。たとえば、エンティティ選択が **Division A** で、エンティティのテキスト・ボックスのセカンダリ POV 選択が「子孫」である場合、ノート・テキスト関数は、**Division A** のすべての子孫のノートを返します。

ノート・テキスト・ボックスを操作するには:

Note

次のステップに進む前に、テキスト・ボックスがデータ・ソースに対応し、レポートに**名前付き POV**が定義され、オプションで、少なくとも1つのディメンションでセカンダリ POVを表示するために「**テキスト POVによる制御**」が有効化され、ノート・テキスト関数が挿入されているとします。

1. ノート・テキスト関数が挿入および構成されたテキスト・ボックスを含む、レポートをオープンします。
2. レポートのグローバル POVを変更し、テキスト・ボックスでノートを取得および表示します。
3. テキスト・ボックスでセカンダリ POV 選択が有効になっている場合、セカンダリ POV のドロップダウンをクリックして、次のいずれかの使用可能なオプションを選択できます。
 - **メンバー(CurrentPOV)**
 - **CurrentPOV の子**
 - **CurrentPOV の子(包含)**
 - **CurrentPOV の子孫**
 - **CurrentPOV の子孫(包含)**
 - **CurrentPOV の下位メンバー**
 - **CurrentPOV の下位メンバー(包含)**

例:

次の例では、エンティティ **E01** がレポートのグローバル POV で選択されています。テキスト・ボックスのセカンダリ POV では「**E01 の下位メンバー**」が選択され、テキスト・ボックスのノート・テキスト関数により、**E01 の最下部**のすべてのノートが返されます。

Fiscal Calendar	Years	Entities	Segments	Accounts
Jan	FY18	E01	AllSegments	340000

	Actual	Plan	Variance
Net Revenue	55,231,158	63,174,759	-7,943,601
Cost of Sales	35,842,698	40,464,282	4,621,584
Gross Profit	19,388,459	22,710,477	-3,322,017

Bottom ... ▾

Performance Summary
Administrator - 9/7/21
Entities: E01_101_1110
Segments: AS, Fiscal Calendar: Jan
Egestas congue quisque egestas diam in arcu cursus euismod quis. Egestas sed tempus urna et pharetra pharetra massa massa ultricies. Leo vel orci porta non pulvinar. Netus et malesuada fames ac turpis egestas sed.
Segments: TV, Fiscal Calendar: Jan
Tellus pellentesque eu tincidunt tortor aliquam nulla facilisi cras. Blandit volutpat maecenas volutpat blandit aliquam etiam erat. Nunc pulvinar sapien et ligula ullamcorper malesuada proin libero nunc. Sed risus pretium quam vulputate dignissim suspendisse in est. Pharetra convallis posuere morbi leo.
Entities: E01_101_1120
Segments: AS, Fiscal Calendar: Jan
Varius duis at consectetur lorem donec massa sapien. Tempus iaculis urna id volutpat lacus laoreet. Interdum velit euismod in pellentesque massa. Egestas diam in arcu cursus euismod quis viverra nibh.

「**E01 の子**」を選択する場合、**ノート**のより小さいリストがテキスト・ボックスに表示されます。

Fiscal Calendar	Years	Entities	Segments	Accounts
Jan	FY18	E01	AllSegments	340000

	Actual	Plan	Variance
Net Revenue	55,231,158	63,174,759	-7,943,601
Cost of Sales	35,842,698	40,464,282	4,621,584
Gross Profit	19,388,459	22,710,477	-3,322,017

Idren of E01 ▾

- E01
- Children of E01
- Children of E01 (Inclusive)
- Bottom Members of E01
- Bottom Members of E01 (Inclusive)

Segments: TV, Fiscal Calendar: Jan
 Risus quis varius quam quisque id diam vel quam. Aliquam etiam erat velit scelerisque in dictum. Amet consectetur adipiscing elit ut aliquam purus sit amet luctus. Facilisis magna etiam tempor orci eu lobortis elementum nibh.

3

ブックの表示および操作

ブックについて

ブックを使用すると、1つ以上のレポート、ブックおよび他の文書をグループ化して、単一のPDF出力を生成できます。オプションで、目次(TOC)定義を挿入した Word 文書、共通マージン、ページ・ヘッダーとフッターを使用して、カスタマイズ可能な目次を含めることができます。

レポートは、複数メンバー選択に対して実行できます。たとえば、複数の**部門**または**エンティティ**に対して1つ以上のレポートを実行できます。**セクション**を挿入して、複数のレポートおよびメンバー選択をループできます。また、**セクション**を使用して、目次表示用に複数のレポートを1レベルにグループ化できます。

次の高レベル機能を備えています。

- レポート、他のブック、Word 文書および PDF 文書をブックに挿入できます。Word 文書および PDF 文書はライブラリにアップロードする必要があり、ローカル・ファイル・システムからは挿入できません。
- 目次の書式設定とレイアウトに加えて、ブック内の文書ごとに表示される情報もカスタマイズできます。
- レポートまたはセクションごとにカスケードする視点(POV)メンバーを選択できます。
- ブックの実行時に POV を選択できます。
- 異なる階層レベルおよびディメンション選択でカスケードするのに使用できる、複数レベルのセクションを作成できます。
- 「**ページ設定**」機能を使用して、ページ番号、マージンおよびヘッダーとフッターを定義できます。

ブックを作成する場合は、次の点に注意してください。

- 最初のリリースでは、ブック機能は、1つのブックに対して1つのデータ・ソースに制限されます。
- ブック・デザイナーからプロンプトを設定する必要があり、ブックの実行している間は応答できません。
- ブックに PDF または Microsoft Word ファイルを追加すると、このような文書にユーザーの POV バーは表示されません。

① ノート

ブックに文書を追加すると、ライブラリへのリンクが参照されます。実際の文書はブックにコピーされません。

実際には、目次定義がブックにコピーされ、ライブラリのソース文書にはリンクされません。

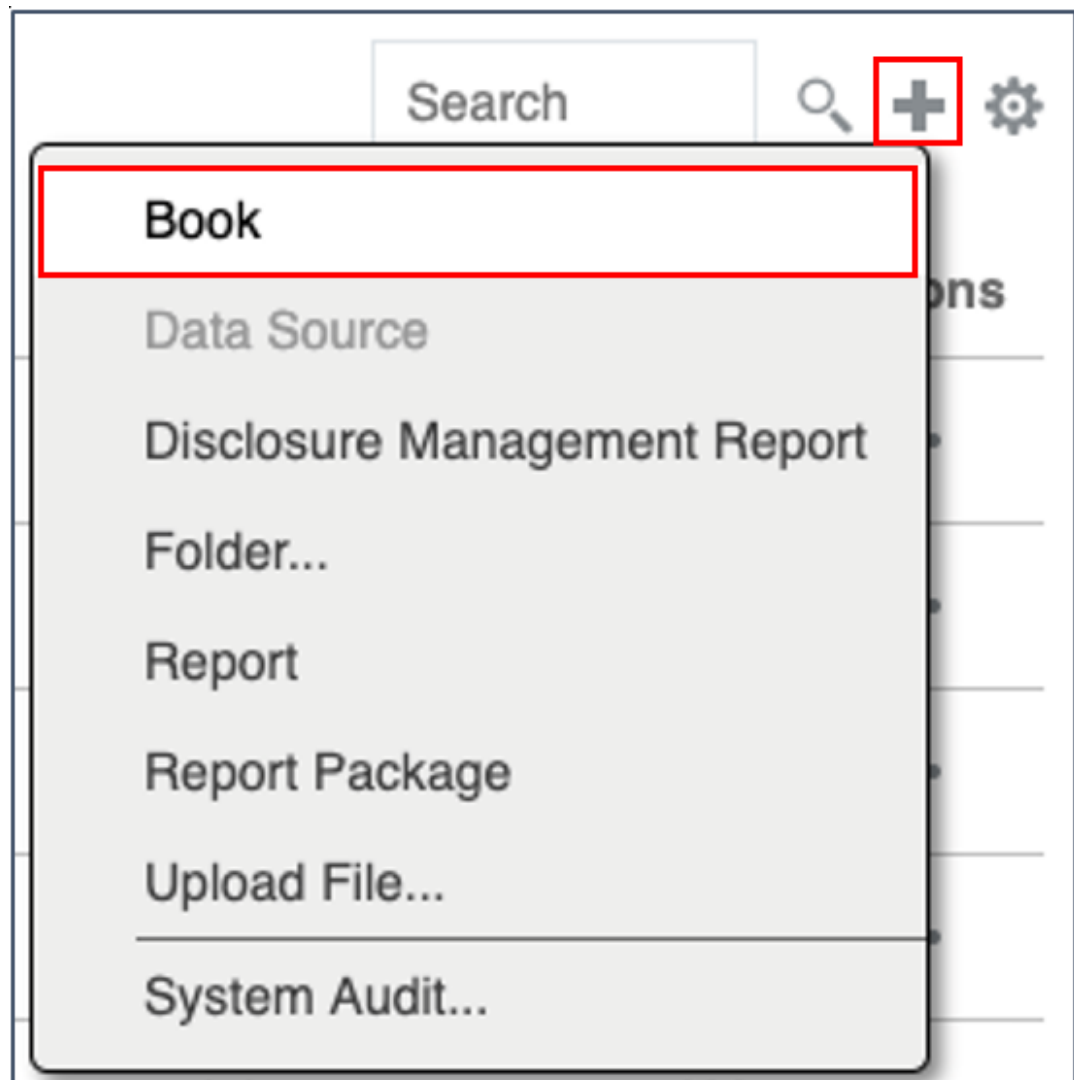
ブックへのアクセス

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

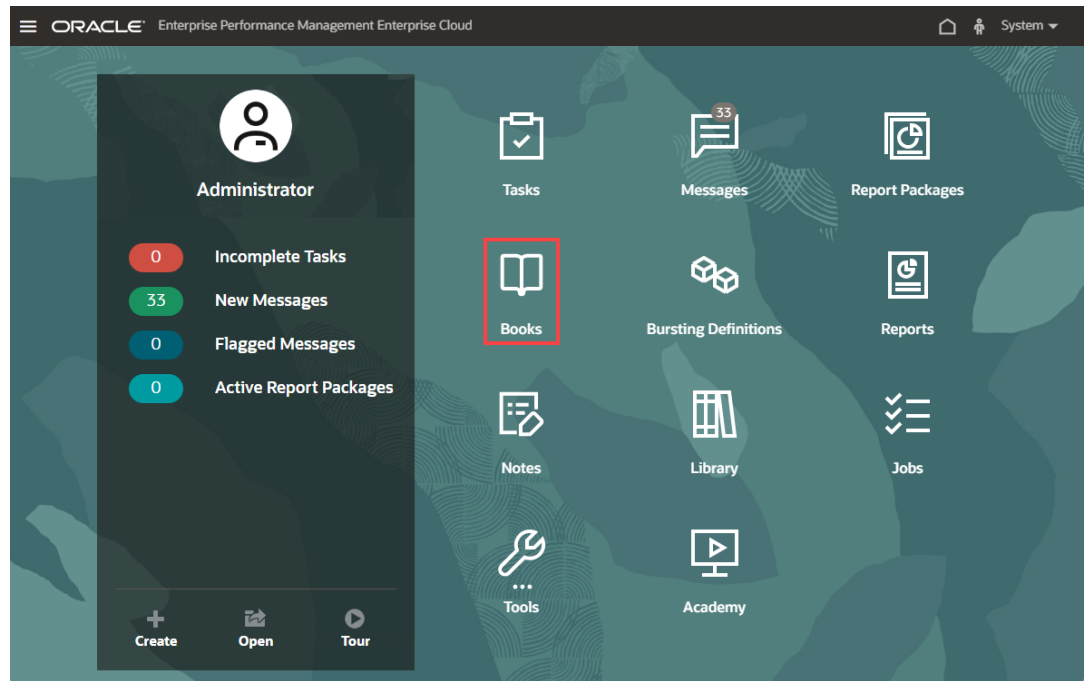
ブックにアクセスするには、ホーム・ページから「ブック」または「ライブラリ」カードを選択します。

Narrative Reporting からブックにアクセスするには:

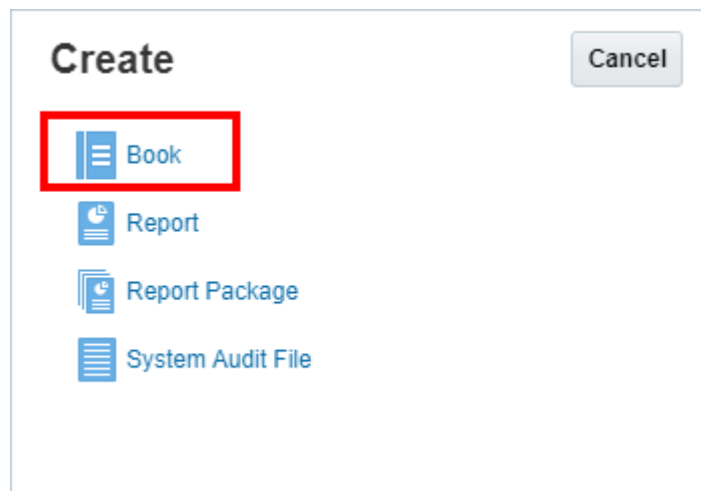
1. 「ブック」システム・フォルダまたはシステム以外のフォルダから、**+** をクリックし、メニューから「ブック」を選択して「ブック」を作成できます。



2. 「ブック」パネルから、**+** をクリックします。



3. ホーム画面から、「作成」をクリックし、「ブック」を選択します。

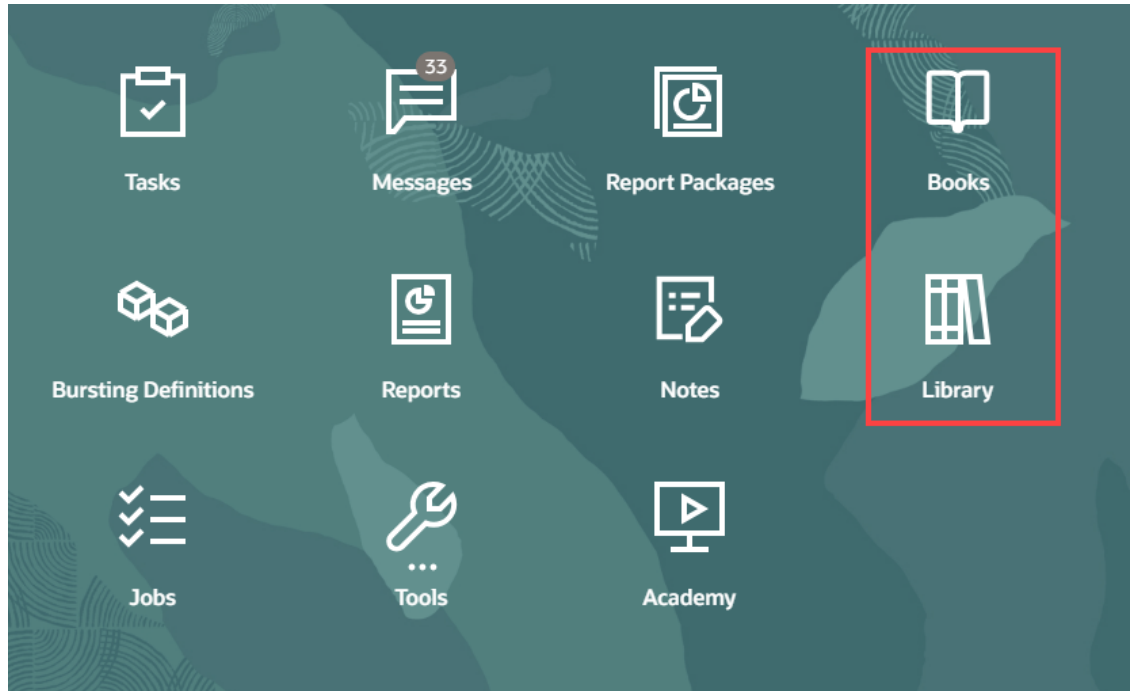


① ノート

「ブック」パネルで、既存のブックのリストを「最近」、「お気に入り」および「すべて」でフィルタ処理できます。

詳細は、「[Narrative Reporting へようこそ](#)」および「[ライブラリについて](#)」を参照してください

ホーム・ページから移動を開始する場合は、システム生成された「ブック」フォルダから、自分が作成またはアクセス権(表示権限)が付与された「ライブラリ」の個人用のフォルダから、および下のイメージに示すようなホーム・ページから「レポート」または「ライブラリ」のアイコンを選択することで、「ブック」にアクセスできます



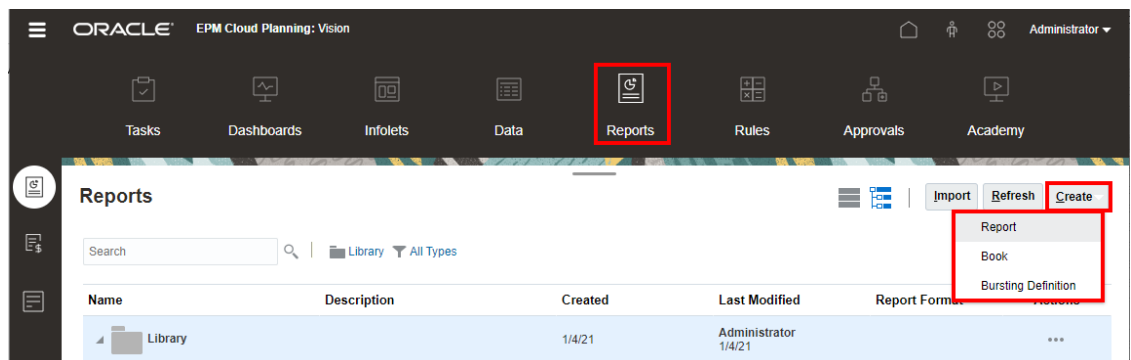
Enterprise Performance Management Cloud デプロイメントの場合:

ブック作成ウィンドウにアクセスします。

Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management サービスから



「レポート」カードを選択し、左ペインから「レポート」アイコンを選択し、コンテンツ・ペインの上部にある「作成」ドロップダウン・メニューをクリックして、「ブック」をクリックしてブック作成ウィンドウを起動します。



① ノート

ただし、Tax Reporting Cloud サービスの場合、「ライブラリ」にナビゲートし、「レポート」タブを選択する必要があります。

ブックのプレビュー

ブックのプレビューについて

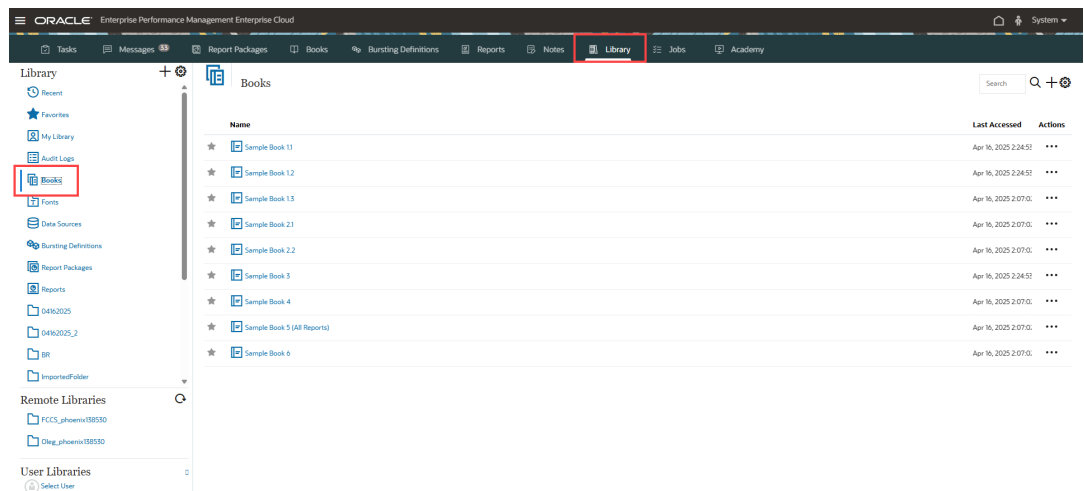
参照者ロールがある場合、**ブック・デザイナー**によって設定された選択内容によって、ブックのプレビュー時に、使用可能な POV ディメンションのメンバーを選択できます。

POV ディメンションはブックの上部に表示されます([ブックの POV のプレビュー](#)を参照)

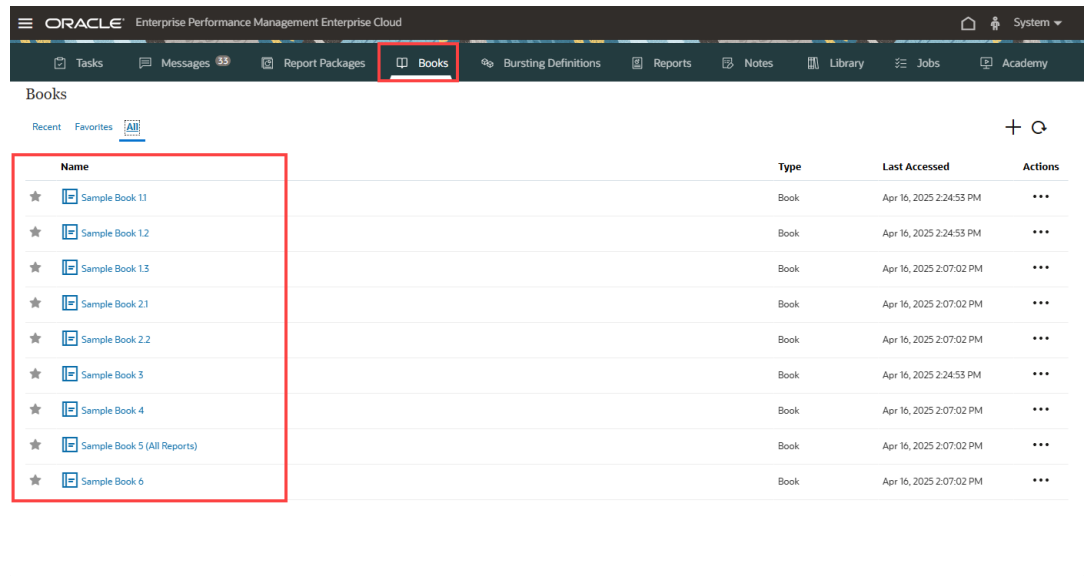
ブックをプレビューするには:

Narrative Reporting デプロイメントでは、次のいずれかが可能です。

1. 「ライブラリ」カードからブックを選択します。



2. 「ブック」カードからブックを選択します。



Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合:

1. 「レポート」

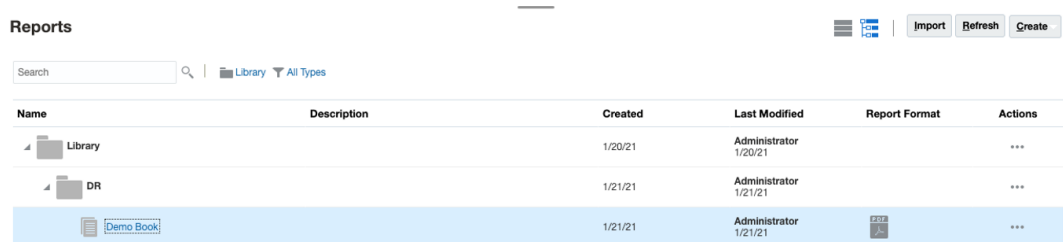


カード(Tax Reporting の「ライブラリ」カード)を選択します。Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュールで、左ペインから「レポート」アイコンを選択します。Financial Consolidation and Close および Tax Reporting で、水平タブから「レポート」を選択します。

2. ブックを選択し、



アイコンをクリックして PDF プレビューにブックを起動します。



ブック POV のメンバーの選択

ブック視点を設定するには:

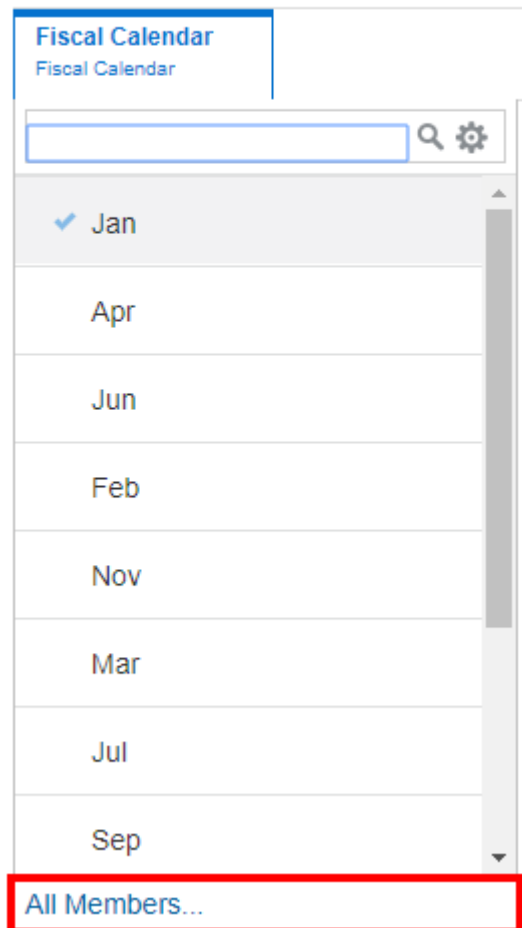
1. ブック・デザイナーの編集モードでブックをオープンします。
2. ブック・エディタの上部にある POV バーでディメンションのラベルをクリックし、そのディメンションのメンバー・セレクトをオープンします。

① ノート

POV ディメンションが使用不可(灰色のラベル)になっている場合は、そのディメンションの POV 選択を変更できません。

3. ブック・デザイナーに単一の POV メンバーが表示される場合。ブックのプレビュー時に、POV バーのメンバーをクリックし、「すべてのメンバー...」を選択して「メンバー・セレクト」ダイアログをオープンして追加メンバーを選択することによって、そのディメンションに対する選択を行うことができます。
 - 「すべてのメンバー...」を選択して「メンバー・セレクト」ダイアログをオープンして追加メンバーを選択します。

Sample Book 1.1



- **オプション:** 同じディメンションに対して最近選択したメンバーもリストされます。

Member Selector [OK] [Cancel]

Fiscal Calendar
Fiscal Calendar

Search [🔍] [⚙️]

Jan
Apr
Jun
Feb
Nov
Mar
Jul
Sep
Aug
May

Choice List ▼
Choice List
Recent
Members
Substitution Variables

- **オプション:** POV メンバー・リストに複数のメンバーがリストされている場合は、リストから単一のメンバーを選択します。
4. 残りの POV ディメンションに対して、メンバーの選択と POV オプションの設定を必要に応じて続行します。

① ノート

ブック視点の選択として代替変数およびユーザー変数を使用する場合、変数値は、システムがデータ・ソースに最初に接続するときに取得されます。メンバー・セレクタまたは POV(あるいはその両方)に変数の値が表示されます。ブックの実行時に、ブック内のレポートに対して最新の変数値が取得されます。ただし、ユーザーのセッション中に変数値が変更された場合、ユーザーがログアウトしてから再度ログインして新しいセッションに再接続するまで、変更はブックのメンバー・セレクタまたは POV に表示される変数値に反映されません。

ブック・プロンプトへの応答

(「**すべての選択の印刷**」が有効化されている)グローバル POV、グリッド列またはグリッド行にレポート設計者がプロンプトを追加している場合、レポートをプレビューするときに「**メンバーの選択**」ダイアログ・ボックスでプロンプトに対してメンバーを選択します。プロンプトを手動で入力することもできますが、次の動作と制限事項があります:

- 実行時プロンプト・ダイアログでプロンプトに表示されているものに基づいてメンバーの(一意の)名前または別名を入力します。

Note

共有メンバーを選択する場合は、ユーザー・インターフェースに表示される一意のメンバー名を入力する必要があります。

- 複数選択プロンプトの場合は、カンマをセパレータとして使用することで複数のメンバーを入力できます。メンバー名にカンマが含まれている場合は、複数のプロンプトを手動で入力するのではなく、メンバー・セレクタを使用する必要があります。
- メンバー入力では大小文字が区別されます。
- 無効なエントリがある場合は、「**取消**」をクリックする以外は、ダイアログを終了する前にそれらのエントリに対処する必要があります。

ブック内のレポートにプロンプトが含まれている場合は、ブックの実行時にプロンプトに応答できます。設計者が指定した選択リストから選択することも、設計者が選択リストを指定していなかった場合は自分がアクセス権があるディメンションのすべてのメンバーから選択することもできます。

ブックのプレビュー時にプロンプトに応答するときには、次のいずれかを使用できます:

- 「**フル**」モード: すべてのレポートおよび挿入されたブックのすべてのプロンプトが別個に表示されます。
- 「**コンパクト**」モード: レポート間で重複するプロンプト(同じデータ・ソースに対する同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、および「複数選択の許可」設定)が統合されます。

ブックのプレビュー時にプロンプトに応答するには:

1. ライブラリでブックをクリックするか、ブックの編集時に「**プレビュー**」をクリックすることで、ブックをプレビューできます。
2. 「**プレビュー時の値のプロンプト**」を有効にして構成されているレポートのプロンプトがブックにある場合、「**プロンプト**」ダイアログが表示されます。「**プロンプト**」ダイアログには、「**コンパクト**」と「**フル**」の2つのモードがあります。
3. 「**コンパクト**」を選択して、レポート間で重複するプロンプト(同じデータ・ソースに対する同じディメンション、プロンプト・ラベル、選択リスト、デフォルトの選択、および「複数選択の許可」設定)を統合して表示します。

または

「**フル**」を選択して、すべてのレポートおよび挿入されたブックのすべてのプロンプトを別個に表示します。

Note

- 選択は、選択が行われたモード(「コンパクト」または「フル」)にのみ適用されます。
- 挿入されたブックの「プロンプト」は"ノード"・レベルで公開され、挿入されたブックのすべてのプロンプトの「コンパクト」リストが常に表示されます。



Prompts OK Cancel

Compact shows a consolidation of prompts while Full shows all the prompts that exist in the book. Please choose Compact or Full view and proceed to make member selections. Member selections are only applicable to the prompts in the view where the selections were made.

Compact
Full

Text Filter 🔄

Selection			Context
Select a month * Jun	☰	🔄	Artifact Name Multiple Data Source Sample Model
Select one or more Segments * BAS,HTAS	☰	🔄	Artifact Name Multiple Data Source Sample Model Grid Multiple
Select an Entity * E01	☰	🔄	Artifact Name Sample Report 14b (Prompt report2) Data Source Sample Model Grid Grid 1
Choose a reporting region * E01,E02	☰	🔄	Artifact Name Sample Report 5 (Prompts) Data Source Sample Model
Select a Quarter * Q1	☰	🔄	Artifact Name Sample Report 5 (Prompts) Data Source Sample Model

4. プロンプトごとに、「メンバーの選択」  をクリックしてメンバー・セレクトをオープンし、目的の選択を行うか、プロンプト選択を手動で入力します。「すべてのプロンプト選択のリセット」  をクリックして、プロンプト選択の変更を元のレポート・プロンプト選択にリセットすることもできます。
5. すべてのプロンプトの選択が完了したら、「OK」をクリックしてブックのプレビューを続行します。

ブックの POV のプレビュー

「ユーザー・プリファレンス」で「POVのプレビュー」を選択した場合、ブックをオープンまたはプレビューするには、



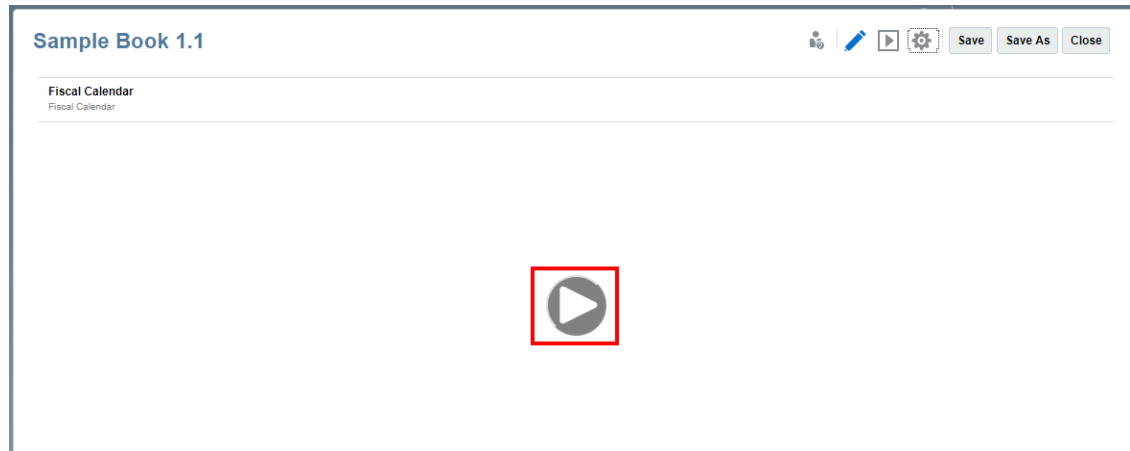
を選択してデータをリフレッシュする必要があります。

Narrative Reporting デプロイメントの場合:

レポート・プリファレンス・タブに移動します。[ユーザー・プリファレンスの管理](#)を参照してください。

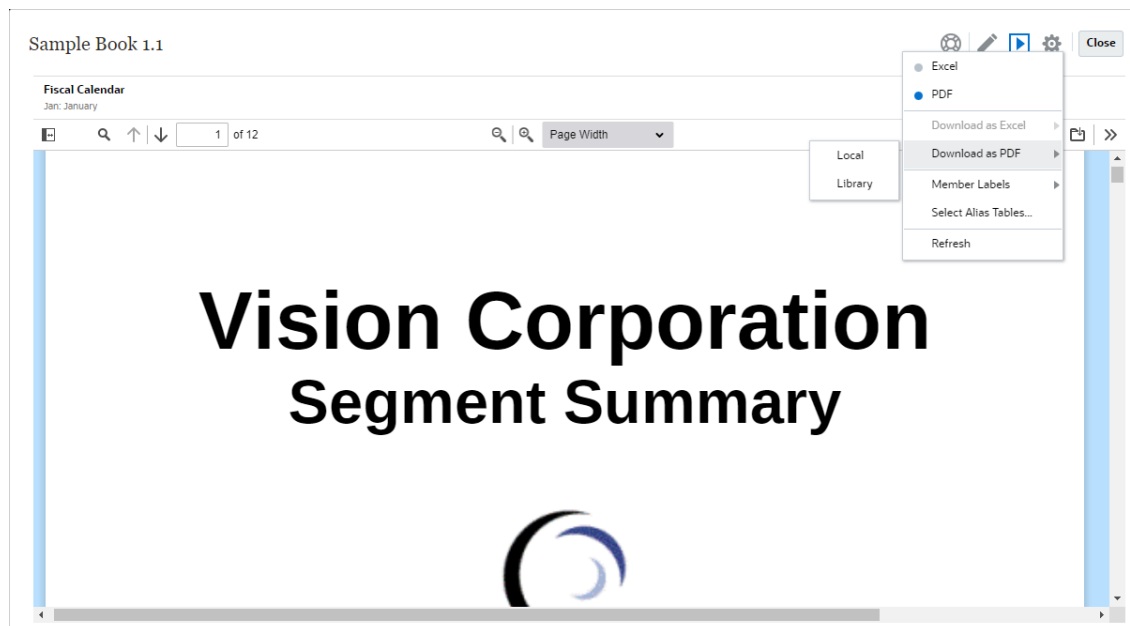
Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management デプロイメントの場合:

「ユーザー・プリファレンス」タブ、「レポート」の順に移動します。



ブックの表示

ブックを表示すると、「処理」メニュー・オプションを選択して次のタスクを実行できます。

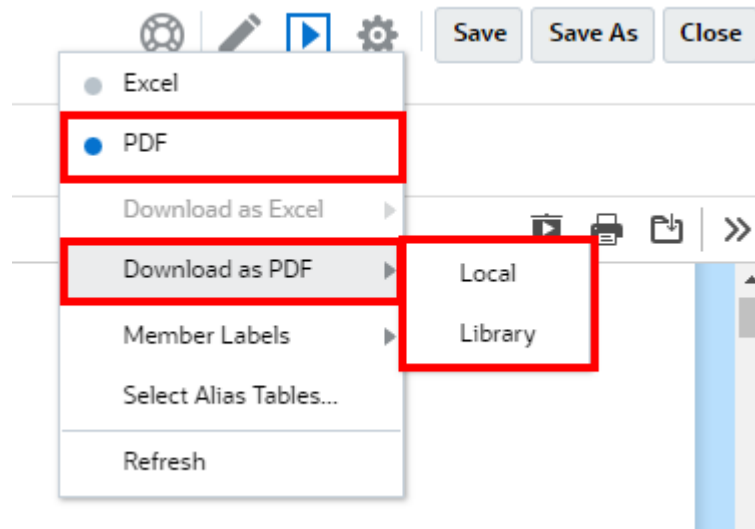


① ノート

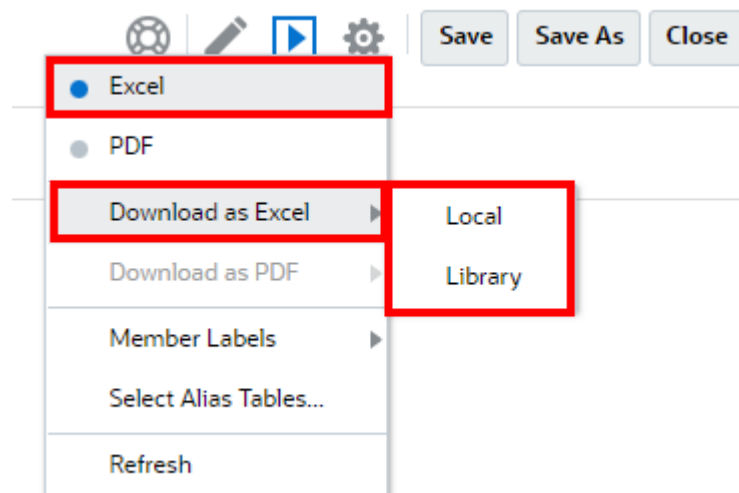
レポートの出力タイプは、レポートのプレビュー時に行われた選択に基づいて保持されます。たとえば、選択を「HTML」から「Excel」に変更した場合、レポートを実行するたびに出力は Excel ワークブックに変換され、ローカル・マシンにダウンロードされます。

プレビュー・モードを切り替えるには:

- 「PDF」を選択した場合、ブックは PDF 書式で実行され、「PDFとしてダウンロード」を選択してから、「ローカル」または「ライブラリ」を選択できます。



- 「Excel」を選択した場合、ブックは Excel ワークブックとして実行され変換されます。ファイルをローカルにダウンロードできます。また、「Excel形式でダウンロード」を選択し、「ローカル」または「ライブラリ」のいずれかを選択できます。



ブックを Excel 形式でダウンロードする場合:

- レポートのみが Excel 出力に含まれます。ブックに「Word」または「PDF」文書や挿入されたブックが含まれている場合、それらは「Excel」出力に含まれません。
- ブック・デザイナーの「プロパティ」パネルで定義された目次見出しに基づいて、個々のレポート・ワークシートへのリンクがある目次(TOC)シートが生成されます。Excel の最大ワークシート文字数は 31 のため、該当する場合は、31 文字の制限にあわせてワークシート名が切り捨てられます。
- ブックをリフレッシュできます。
- 「メンバー・ラベル」(「別名」、「メンバー名」または「両方」)をクリックして、POV メンバーを表示できます。
- ブックの別名表を選択できます。

サイズ変更やブック実行の観点から、ブックのガバナーは次のとおりです。

- 500 を超えるカスケード式があり、すべてのセクションとレポートに対するすべての POV ディメンション選択の組合せである場合、ブックは実行されず、**最大カスケード式**エラーが返されます。この最大値は、すべての POV ディメンション選択の積です。

たとえば、2 つの POV ディメンションがあるセクションがあり、次の数の選択があるとします。

- Entity = 100 selections
- Account = 6 selections

$100 \times 6 = 600$ は、許可されるガバナー数を超えています。

- 実行可能なカスケード式の数(ブックまたはレポート)が 200 を超える場合、ブックは実行されず、**最大カスケード式**エラーが返されます。この最大値は、POV 選択に基づいて、すべての結果のブックおよびレポート出力の数です。

たとえば、1 つの POV ディメンションがあるセクションがあり、3 つのレポートで 100 の選択があるとします。

$100 \times 3 = 300$ は、許可されるガバナー数を超えています。

4

リモート・ライブラリでのレポート・アーティファクトの操作

Narrative Reporting のリモート・ライブラリを使用すると、同じドメイン上の Oracle Fusion Cloud Enterprise Performance Management プラットフォーム・インスタンスのレポート・アーティファクトにアクセスできます。Narrative Reporting ライブラリでは、ユーザーはリモート・ライブラリでレポート・アーティファクトを参照し、レポートを**オープンしたり**、Cloud EPM プラットフォームから Narrative Reporting に**コピー**することができます。

サポートされるアーティファクトには、**レポート**および**レポート・スナップショット**、**ブック**、**バースティング**、**Microsoft Office** ファイルおよび **PDF** があります。

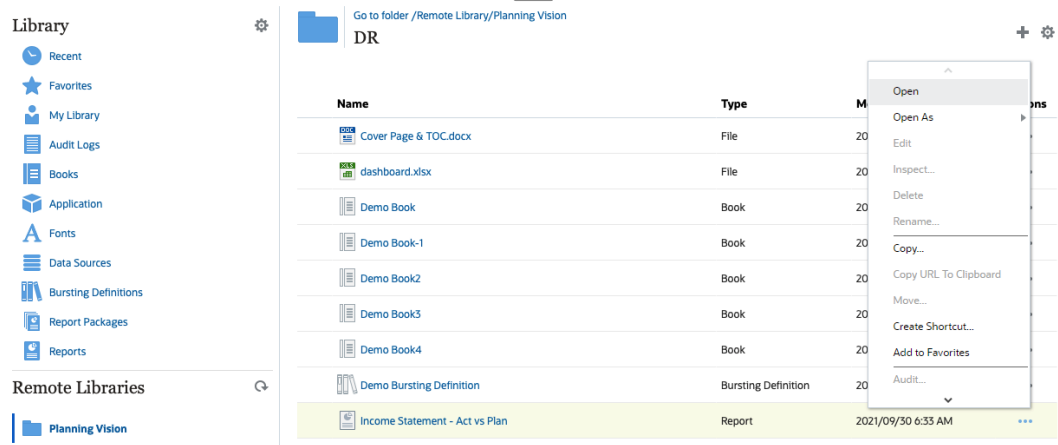
① Note

- **リモート・ライブラリ**は、サービス管理者によって構成されます。
- リモート・ライブラリにアクセスする Narrative Reporting ユーザーは、ユーザーである必要があり、「**接続**」でアーティファクトに対するアクセス権限が必要です。
- **リモート・ライブラリ**からのアクセスは、Cloud EPM プラットフォーム・インスタンス(Enterprise Profitability and Cost Management、フリーフォーム、Planning および Planning モジュール、Financial Consolidation and Close、Tax Reporting)に対してのみ有効にでき、他の Narrative Reporting インスタンスに対しては有効にできません。
- レポート・ライブラリ内のアーティファクトは編集できません。アーティファクトをオープンするかレポートをコピーすることのみが可能です。アーティファクトは Cloud EPM インスタンスで直接編集することのみができ、Narrative Reporting の**リモート・ライブラリ**からはできません。

リモート・ライブラリおよびそのレポート・アーティファクトにアクセスするには：

1. Narrative Reporting ホーム・ページで、「**ライブラリ**」を選択します。
2. 左側のパネルの「**リモート・ライブラリ**」の下で、参照するリモート・ライブラリをクリックします。

リモート・ライブラリのフォルダおよびアーティファクトが、「**ライブラリ**」の右パネルに表示されます。フォルダおよびサブフォルダを選択し、コンテンツを参照できます。



3. 様々なアーティファクト・タイプに対して、次の処理を実行できます。

Table 4-1 これらの各アーティファクト・タイプに対して処理を実行

アーティファクト・タイプ	アクセス・ポイント	処理
レポートおよびレポート・スナップショット	「処理」メニュー	<ul style="list-style-type: none"> • オープン • HTML、PDF または Excel としてオープン • コピー • ショートカットの作成
ブック	「処理」メニュー	<ul style="list-style-type: none"> • オープン • PDF または Excel としてオープン • ショートカットの作成
パースティング定義	アーティファクト名をクリック	<ul style="list-style-type: none"> • オープン • ショートカットの作成
Microsoft Office ファイルおよび PDF	アーティファクト名をクリック	<ul style="list-style-type: none"> • ファイルのダウンロード • ショートカットの作成

リモート・ライブラリ・アーティファクトのショートカットの作成

① Note

Narrative Reporting のリモート・ライブラリを使用すると、同じドメイン上の **Oracle Enterprise Performance Management Cloud** プラットフォーム・インスタンスのレポート・アーティファクトにアクセスできます。

リモート・ライブラリからショートカットを作成するには、これらのステップを実行します。

1. **Narrative Reporting Cloud** にログインします。
2. Narrative Reporting ライブラリの「**リモート・ライブラリ**」でリモート・ライブラリを選択し、「**レポート**」、「**レポート・スナップショット**」、「**ブック**」、「**パースティング定義**」またはサード・パーティ・ファイルを強調表示してから「**処理**」アイコンをクリックして、Cloud EPM プラットフォームから Narrative Reporting への「**ショートカットの作成**」を選択します。

3. **Narrative Reporting ライブラリ**で宛先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。

Note

リモート・ライブラリは、サービス管理者によって構成されます。**Narrative Reporting ライブラリ**と同様に、管理者が**リモート・ライブラリ**にログインしてアーティファクトまたはサードパーティ・ファイルを削除すると、そのリモート・ライブラリのアーティファクトまたはサードパーティ・ファイルを指しているすべてのショートカットがローカルで不要になります。

5

レポートおよびブックの URL のコピー

URL をクリップボードにコピー機能では、レポート・パッケージ、レポート、スナップショット・レポート、ブックまたはサード・パーティ・ファイルなどのライブラリ・アーティファクトの URL をコピーできます。URL により、アーティファクトがシン・ビューアに直接起動されるか、サードパーティ・ファイルがダウンロードされます。コピーすると、ユーザーが直接リンクを介してアーティファクトまたはファイルに簡単にアクセスできるように、URL を配布できます。ブラウザのお気に入りとして設定することもできます。

ネイティブ・ライブラリ・アーティファクトを使用して起動されたシン・ビューアでは、アーティファクトの「保存」機能がない「処理」メニューの基本機能が許可されます。この機能は、すべてのライブラリ・システムおよびユーザー作成フォルダ(ホーム・ページのカードを含む)で使用でき、アーティファクトに対して少なくとも表示権限を持つすべてのユーザーが URL をコピーできます。

① Note

- この機能は、複数選択に対しては使用できず、単一選択のアーティファクトのみです。
- この機能はフォルダには適用されません。
- コピーした URL を起動するユーザーは、アーティファクトに対する少なくとも表示アクセスが必要です。

レポートまたはブックの URL のコピー

URL をコピーするには、これらのステップを実行します。

1. Narrative Reporting クラウドにログインします。ホーム・ページで、「レポート」、「ブック」または「ライブラリ」を選択します。
2. 「レポート」アーティファクトにナビゲートし、「レポート」、「スナップショット・レポート」または「ブック」を強調表示してから、「処理」アイコンをクリックして「URL をクリップボードにコピー」を選択します。
3. 必要な場所に URL を貼り付けます。URL をクリックすると、レポート・アーティファクトがブラウザ・ウィンドウに起動されます。